



独立行政法人国立高等専門学校
鳥羽商船高等専門学校

研究シーズ集 2025

商船学科

Nコース

山田 智貴	■沿岸海域における環境モニタリングと共生の技術	1
鎌田 功一	■船体の流体力及び流れ場の計測と推定	2
北村 健一	■生理指標による操船者の心的負荷評価	3
齊心 俊憲	■練習船鳥羽丸を用いた船員（海洋）教育	4
西井 典子	■沿岸海域における海洋特性と自然現象	5
吉田 南穂子	■小型船舶における操縦者の挙動に関する研究	6
片倉 広暁	■DPOに関する研究	7
谷水 聖奈	■船員疲労と安全運航に関する研究	8

Eコース

小川 伸夫	■移動体の制御に関する研究	9
窪田 祥朗	■ディーゼルエンジン排気ガス浄化システム	10
嶋岡 芳弘	■船用機関の排熱発電システムに関する研究	11
小田 真輝	■表面テクスチャリングの潤滑特性	12
広瀬 正尚	■高性能細径伝熱管内の新冷媒の伝熱特性	13
山口 康太	■超電導回転機の冷却システムに関する研究	14
山野 武彦	■機関コース学生及び若年機関士向け新規実習教材開発の研究	15
渡辺 幸夫	■海流発電用水車の開発	16

情報機械システム工学科

出江 幸重	■センサ計測とクラウドデータ管理によるIoTシステム	17
伊藤 立治	■就職相談ロボットの開発	18
江崎 修央	■スマート水産業を実現するAI/IoT基盤の構築	19
北原 司	■レーザーセンシング技術	20
白石 和章	■農林水産分野におけるIoTおよびAI応用	21
林 浩一	■粒状体を用いたダンパの開発	22
林 浩一	■磁性エラストマを用いた振動機器の開発	23
廣瀬 誠	■3次元計測およびその応用に関する研究	24
溝口 卓哉	■ハドロン・光子の相関とスペクトルの理論と解析	25
宮崎 孝	■家庭用ロボットの制御	26
亀谷 知宏	■光を用いた圧力・温度計測技術に関する研究	27
児玉 謙司	■設計・加工・生産システムとデジタルツイン	28
酒井 智香子	■物性研究の技術を活かした農産物・食品の新たな評価手法の創出	29
中井 一文	■スポーツに関する研究の取り組み	30

中古賀 理	■眼球運動計測を用いたヒトの感情推定	31
藤井 正光	■微小金属と光との相互干渉の解析	32
増山 裕之	■水産業における音響波利用に関する検討	33
守山 徹	■新規機能性セラミックスの創成	34
脇坂 賢	■実社会のスケジューリング問題の定式化	35
西山 延昌	■高周波信号用差動伝送線路の開発	36
澤田 圭樹	■OPAプレカラム誘導体化法によるアミノ酸分析	37
重永 貴博	■高専生におけるバレーボールのサーブとレセプションに関する研究	38
鈴木 聡	■外国語辞書の研究	39
鈴木 聡	■臨時教員養成所卒業生の研究	40
鈴木 聡	■外国語聖書を通じての語法研究	41
鈴木 聡	■非英語圏における英語教育の研究	42
鈴木 聡	■海事英語の研究	43
中平 希	■中央と地方ー16世紀ヴェネツィア共和国を実例としてー	44
西川 雅堂	■非線型偏微分方程式に対する非線型波の漸近安定性	45
橋爪 仙彦	■国際交流活動を通じた言語習得への動機づけ	46
山田 英生	■スポーツ競技会運営	47
島 大吾	■映画は「歴史」をどう描いてきたか	48
田中 秀幸	■確率数値解析とその応用	49
Nicholson Sean Charles	■文字・表記の言語学的分析	50
朴 佳南	■拡張された超幾何関数を解に持つモノドロミー保存変形の諸性質の解明	51
深見 佳代	■財源調達方式と医療アクセスの関係、医師の労働環境分析	52
山中 郷史	■初期宇宙における銀河の形成と進化、および宇宙再電離	53

研究タイトル：

沿岸海域における環境モニタリングと共生の技術

氏名：	山田智貴／Tomoki Yamada	E-mail：	yamada-t@toba-cmt.ac.jp
職名：	教授	学位：	博士(工学)
所属学会・協会：	日本船舶海洋工学会、日本マリンエンジニアリング学会、 日本工学教育協会、日本航海学会		
キーワード：	船舶工学、海洋環境モニタリング、海域の環境問題、海洋科学教育		
技術相談 提供可能技術：	・船舶設計手法、船体動揺、海象計測 ・海域環境計測手法、海域の流況調査、漂流漂着物調査		



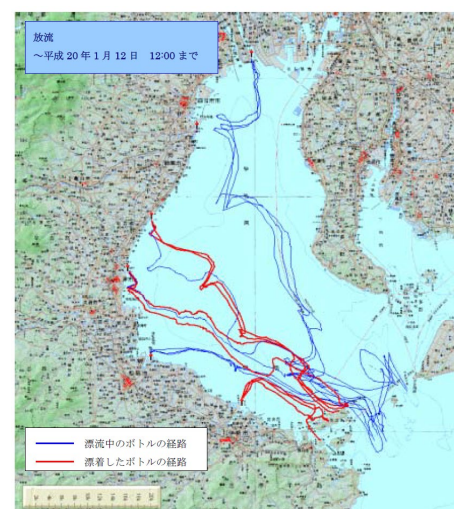
研究内容：

・船舶設計手法、船体動揺、海象計測

船体動揺や現場での波高、波向の計測方法は加速度、角速度センサの小型化高精度化によりすでに「枯れた」ものと思われがちであるが、計測装置の小型化、省電力化のほか分解能の向上による情報量の拡大は今後も続き、船体周りの物理現象あるいは自然環境に関する理解と関連技術の向上がさらに進むことが期待される。ROVの利活用と各種センサの運用や小型化、新しい計測手法の開発について取り組んでいる。

・海域環境計測手法、海域の流況調査、漂流漂着物

GPS 搭載の小型漂流位置計測装置を用いて、大阪湾における表面流場の計測を可能とし、漂流ごみなどの湾内の漂流物の流向の実態を明らかにした。この技術は環境省により伊勢湾でも適用され、答志島に漂着するごみの由来の解明に役立った。(右図) この実績を基として、沿岸海域の環境計測の省力化、高度化に資するため、小型、低コストの漂流型海洋環境計測ブイおよび計測システムの構築に付いて引き続き取り組む。また、ROVの利点を活かした環境モニタリング手法や、教育法、レジャーや観光資源の開発について着手している。



・漁労における作業支援技術等のフィジビリティスタディ

工場での作業と異なり、船上では動揺の影響もあって荷役や機械操作における作業者の負担は大きいものとなる。実海域での環境調査においても然りである。さらに漁業従事者にとっては高齢化が進んでおり、操業を継続するためには、支援技術の開発が不可欠である。

また、これによって作業負担が軽減すれば、安全性の向上のみならず作業環境の改善・向上も見込むことができ、漁業従事者の確保も期待できる。これに資する機材についてのフィジビリティスタディに取り組む。

発信機付漂流ボトルの漂流・漂着経路
 (平成 19 年度漂流・漂着ゴミに係る
 国内削減方策モデル調査 第 3 回地域
 検討会 (三重県) 資料 5-1 から抜粋)

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	
ROV DiveUnit300 (FullDepth)	本体および開発環境

研究タイトル：

船体の流体力及び流れ場の計測と推定



氏名：	鎌田 功一／Koichi KAMADA	E-mail：	kamada@toba-cmt.ac.jp
職名：	教授	学位：	博士(工学)
所属学会・協会：	日本航海学会、日本船舶海洋工学会、日本ソーラー&人力ポート協会		
キーワード：	船舶、海洋構造物、船体抵抗、回流水槽、風洞水槽、造波、MPS 法		
技術相談 提供可能技術：	・船舶・海洋構造物の流体力及び流れ場の計測と推定 ・MPS(Moving Particle Semi-implicit)法を用いた流体シミュレーション		

研究内容：

○船舶・海洋構造物の流体力及び流れ場の計測と推定

・縦型回流水槽を用いた、模型船及び構造物の流体力の計測及び推定。

➢ 模型は簡易 NC(1200mmx300mm)を用いて作成が可能

➢ 模型は発砲ウレタン、FRP、CFRP にて作成が可能

・造波可能な風洞水槽を用いた船舶・海洋構造物の挙動解析。

➢ 外力(風・波浪)を受けた模型の挙動及び流れ場の計測が可能

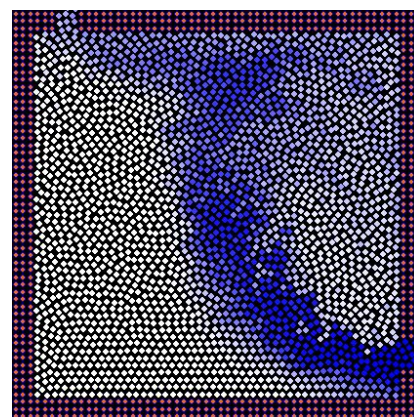
➢ 任意の規則波・不規則波の造波が可能

(例：曳航中の船体の挙動解析、係留用海底固定アンカーの設計)

○MPS 法を用いた流体シミュレーション

MPS(Moving Particle Semi-implicit)法は流体シミュレーション手法の一つであり、砕波などの流体のダイナミックな挙動をシミュレートすることができる。

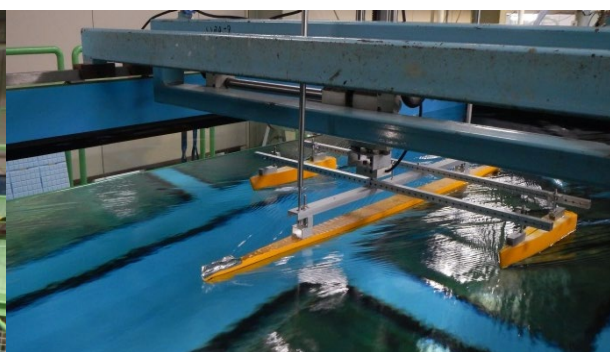
また、流体と剛体のシミュレーションも可能である。



MPS 法を用いたタンク内流体の挙動解析例



縦型回流水槽(西日本流体技研：V2-20B)



回流水槽での船体抵抗試験

提供可能な設備・機器：

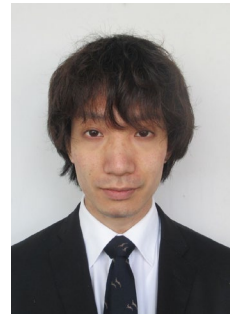
名称・型番(メーカー)

縦型回流水槽(西日本流体技研：V2-20B)	風洞水槽(造波装置付)
錨引張り試験用砂水槽	模型船切削用簡易NC装置
プロペラ単独試験装置	検力計各種(ロードセル、3分力計等)
姿勢計測装置各種(姿勢センサー、加速度センサー等)	容量式波高計(ケネック)
風速風量計(DT-8880)	スモーク発生器(ダイニチ)

研究タイトル：

生理指標による操船者の心的負荷評価

氏名：	北村 健一 / Kenichi Kitamura	E-mail：	Kitamura-k@toba-cmt.ac.jp
職名：	准教授	学位：	博士(海事科学)
所属学会・協会：	日本航海学会		
キーワード：	学習支援システム		
技術相談 提供可能技術：	ヒト生理応答信号の測定		



研究内容： 心的負荷測定器の開発

<研究背景>

操船に関し豊富な経験を持つ者の心的負荷が掛かる、予測できない危険のある海域を認識することで、操船経験の浅い操船者も彼ら同様にその海域を認めることができ、船舶同士の衝突や座礁といった事故を回避することが可能になると考える。したがって心的負荷測定を行うために生理指標を採用する。



提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	

研究タイトル：

練習船鳥羽丸を用いた船員(海洋)教育

氏名： 齊心 俊憲 / Toshikazu Saishin E-mail: saishin@toba-cmt.ac.jp

職名： 准教授 (船長 / Captain) 学位：

所属学会・協会：

キーワード： 船員教育, 海洋教育, 練習船, 小型船舶

技術相談

提供可能技術：

船員教育・練習船実習・小型船舶・免許講習(ECDIS 講習・消火講習・救命講習)
小中学生から社会人を対象とした公開講座及び体験航海・船内見学が可能です。
伊勢湾周辺での海洋環境などの共同研究が可能です。



研究内容：

練習船鳥羽丸では、主に商船学科学生の航海・機関実習及び実験実習を行っています。

1～2 年生では、航海関係及び機関関係の基礎(概要)を学びます。

3 年生以上では、航海コース及び機関コースに分かれ、より専門的な事を学んでいきます。

5 年生では、静岡県御前崎港・神戸港・和歌山県日高港など夜間航海を含めて、学生主体で航海当直を実施しています。

現在、船長及び航海士に求められている、ECDIS (Electronic Chart Display and Information System: 電子海図表示装置) 関係では、搭載している ECDIS を使用して、レーダ重量や UPDATE など、より実践的な訓練を行っています。

また、非常時でも有効な、六分儀で実際に太陽高度を測定して船位を算出、アジマスサークルを使用したジャイロエラーの検出などの天測実習にも力を入れています。

練習船鳥羽丸を使用して、小中学生から社会人を対象とした公開講座や海洋教室及び体験航海や船内見学を実施しています。

研究分野では、本校学生及び教職員の研究や鈴鹿工業高専及び和歌山工業高専との共同研究を実施しています。



提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	
鳥羽丸【主要目】	起工:2023 年 12 月 8 日
全長:56.30m 幅:10.60m 喫水:3.40m 総トン数:394 トン	進水:2024 年 10 月 8 日
航行区域:近海区域(非国際航海) 航海速力 12.0 ノット	竣工:2025 年 3 月 14 日
乗船定員:60 名 (乗組員 9 名 教員 3 名 その他乗船者 48 名)	設備:DPS・自律運航システム・遠隔操船・清水系統の遠隔操作
建造所:三菱重工業マリンシステムズ株式会社 玉野本社工場	レーダー(JMR-9296-6X JMR-9272-S)・ECDIS(JAN-9201)

研究タイトル：

沿岸海域における海洋特性と自然現象

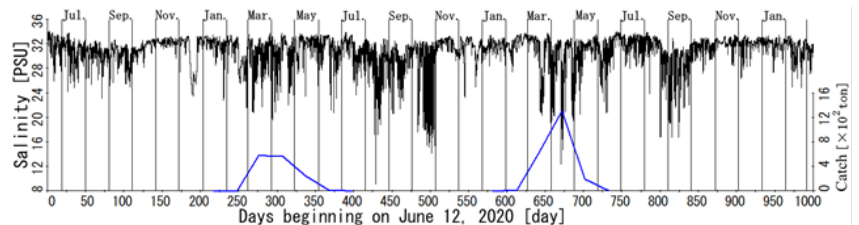
氏名：	西井 典子／Nishii Noriko	E-mail：	nishii.noriko@toba-cmt.ac.jp
職名：	准教授	学位：	修士(海事科学)
所属学会・協会：	日本航海学会		
キーワード：	環境、沿岸表層水、航法、海事教育		
技術相談 提供可能技術：	海洋観測 海事法規に関すること		



研究内容：

○富山湾沿岸における海洋特性と自然現象に関する研究

- ・小型メモリー計測装置を沿岸に設置し、海洋環境を途切れなく継続的に観測している。計測値の解析により、その変動と沿岸で起こる海洋生物を巻き込む自然現象に因果関係が潜在する可能性が明らかとなっている。最近では、令和6年能登半島地震の発生との関連も観測結果より捉えることができており、災害を含む自然現象との関係を研究している。
(令和3年度から令和6年度まで共同研究で実施)



The mean salinity every one hour for 1000 days beginning on June 12, 2020 at Shinminato Marina

- ・湾内の定点で定期的に鉛直構造分布を調査し、同時にプランクトンの観測も実施してきた。富山湾固有種のクリオネは、湾の東側、西側、中央のどの海域においても、約 250m 以浅の水域で生息していることが確認できている。



Captured Clionidae in Toyama Bay.

○海事専門科目の教育・訓練に関する研究

船員および海事技術者を志望する学生が、その職に対する意欲を維持しながら「知識」「技術」「精神」をバランス良く習得することができるようにするための教育内容および方策を考察する。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	

研究タイトル：

小型船舶における操縦者の挙動に関する研究

氏名：吉田 南穂子／Nahoko Yoshida E-mail：yoshida@toba-cmt.ac.jp

職名：准教授 学位：修士(工学)

所属学会・協会：航海学会、船舶海洋工学会

キーワード：航法一般、小型船舶、総合航海、視線計測

技術相談

提供可能技術：

- ・小型船舶操縦による実験計測
- ・操船シミュレータの設備提供
- ・ECDIS シミュレータの研修

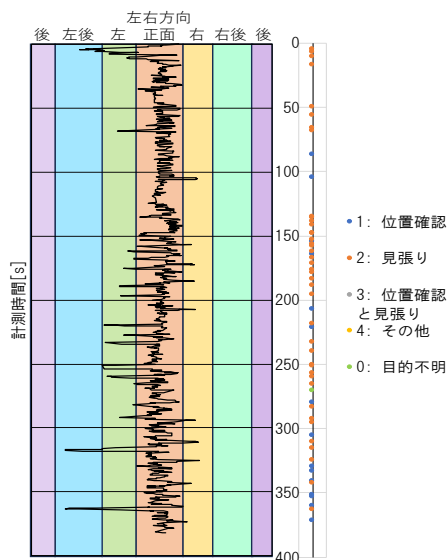


研究内容：

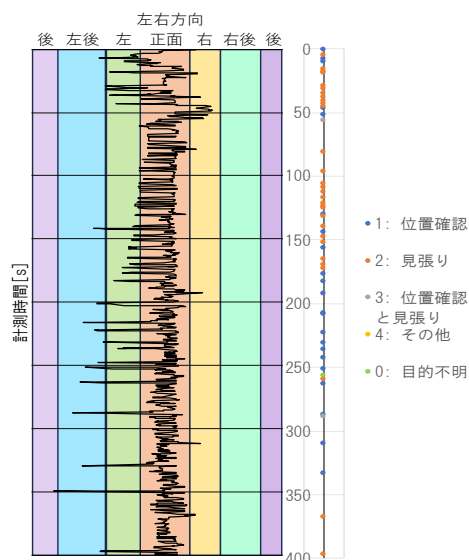
小型船舶操縦者は安全を確保する必要がある。オペレーターには、周囲の状況を把握するためにルックアウトを行い、危険を認識することが求められる。訓練書にもルックアウトは重要な行動として記述されている。海上で何を注視すべきかを知ることは難しく、何を注視すべきかを知ることは必要である。

本研究では、経験の異なる小型操縦者免許を所有する操縦士に操縦を依頼し、視線計測装置を用いて港周辺航行中のオペレーターの注視点を測定し、分割した区間における注視点の比較分析を行っている。操縦者の挙動解析には、航跡、操縦者の視点映像、操縦者の注視点の位置情報の計測値から、操縦者が何に注意して操縦しているのか、いつ、どれぐらいの時間進行方向以外に見張りや安全確認を実施するのか、注視点の移動順序を解析している。

その結果、操縦者の注視点は港湾周辺の予想される危険区域に出現していることもわかった。しかし、狭い範囲で周囲の変化が多く、注視点の移動にばらつきがあった。



初心者における時系列の注視点の左右方向とその目的



教職員における時系列の注視点の左右方向とその目的

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

フルミッション操船シミュレータ(日本海洋科学)

ECDIS シミュレータ(JRC)

小型船舶(総トン数 2.8 トン)

小型操船シミュレータ(VSTEP)

研究タイトル：

DPO に関する研究



氏名：	片倉 広暁／Hiroaki Katakura	E-mail：	katakura.hiroaki@toba-cmt.ac.jp
職名：	助教	学位：	修士（工学）
所属学会・協会：	日本人間工学会 日本航海学会		
キーワード：	人間工学、ヒューマンエラー		
技術相談 提供可能技術：	DPO (Dynamic Positioning Operator) の操船術		

研究内容：

研究紹介（これまでの研究）

DPO (Dynamic Positioning Operator) は、DPS (Dynamic Positioning System) を操船することができる有資格者であり、必要な DP 船 (DPS を搭載した船) の情報（例：船位、船速、船首方位等）を取得することができる。DPS は、DP 船を定点保持することを目的とした航海計器であり、船位、船速、船首方位等を DPO の意図したとおり、効率よく制御する。また、DPS は手動、半自動、全自動を行う様々な制御機能があり、主に海洋調査船、海底ケーブルを敷設する船等に搭載されている。

研究（実験）は、DPO の操船技術という暗黙知を形式知というデータに変換することで、次の世代に受け継ぐ技術継承を確立し、若手 DPO が抱えていた DP 操船に関する不安を解消することで、若手 DPO の操船訓練に役立つことができると考える。



D P S シミュレータ

提供可能な設備・機器：

名称・型番（メーカー）

研究タイトル：

船員疲労と安全運航に関する研究

氏名： 谷水 聖奈／Seina Tanimizu

E-mail： s-tanimizu@toba-kosen.ac.jp

職名： 助教

学位： 修士(工学)

所属学会・協会： 日本航海学会

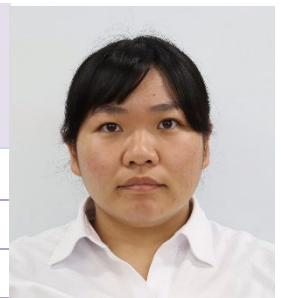
キーワード： 船員労働、疲労、安全運航、

技術相談

提供可能技術：

・船務(航海士業務)

・精神運動覚醒度検査(PVT: Psychomotor Vigilance Test)による客観的疲労の調査



研究内容：

背景と目的：

海上における船舶災害の発生要因は、そのほとんどにおいて人的要因が関係しているとされており、災害を減らしていくためには、人的要因について理解し、これらに関与する改善が必要であると考えられている。また、人的要因の負の要素であるヒューマンエラーの発生は、操船者が疲労やストレスの蓄積により、本来の能力を発揮できない状態にあることが一因であると考えられている。2018年のIMO第100回海上安全委員会で承認された船員の疲労に関するガイドラインでは、「海事活動における疲労に関連すると報告されている負傷や事故の事例は、多大な経済的、環境的、人的コストをもたらしており、疲労のリスクとその原因に対処することは不可欠である」と指針が示されており、船員の疲労に関する研究は、今後の海事産業のためにも重要であると考ええる。

本研究は、疲労に起因する船舶災害の減少を目的とした船員の疲労に関する基礎的研究であり、主に船員の疲労の要因及び傾向の調査を実施している。

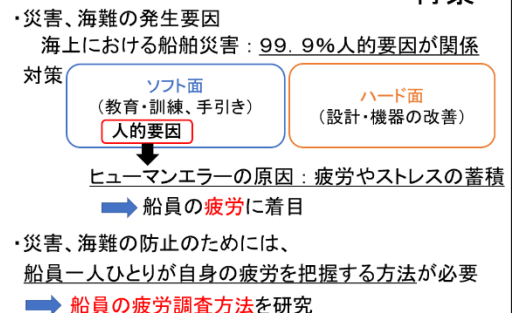
研究内容：

疲労の調査には、精神運動覚醒度検査(PVT: Psychomotor Vigilance Test)による計測、アンケート(自覚症しらべ、カロリンスカ眠気尺度)による計測を使用している。また、疲労と深く関連しているとされている睡眠について、睡眠感調査票を用いて、睡眠の調査を併せて実施している。加えて、行動調査票による行動の調査から、船員の作業や行動、休息時間と疲労との関連性について調査を行っている。



←本研究で使
用した
PVT モニター

背景



【これまでの研究紹介】

- ・船員の疲労調査と疲労回復に関する研究 - 自覚症しらべと心拍数計測による検討 -
(日本航海学会論文集 第137巻、p.90-96 第136回日本航海学会講演会にて講演)
- ・船員の疲労調査に関する研究 - PVT計測と自覚症状調査による事例検討 -
(第150回日本航海学会講演会にて講演)
- ・Study on Seafarer's Fatigue Survey - Consideration by Psychomotor Vigilance Test and Sleep Feeling Survey
(2024年10月30日 Asia Navigation Conference 2024にて講演)

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	

研究タイトル：

移動体の制御に関する研究

氏名：小川 伸夫／Nobuo Ogawa

E-mail：soumu-kikaku@toba-cmt.ac.jp

職名：教授

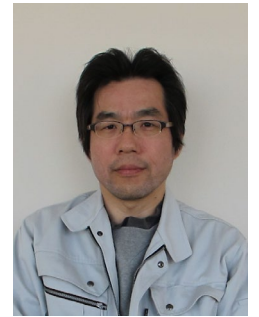
学位：博士(工学)

所属学会・協会：機械学会、計測自動制御学会、ロボット学会、船用機関学科、ASME

キーワード：制御およびシステム工学関連、制御理論、非線形、システム理論、制御システム

技術相談 移動体の制御に関すること

提供可能技術：制御に関する技術



研究内容：

移動ロボットとしては最も単純な2輪独立駆動型ロボットを取り上げ、自律制御に関する研究を行っています。図は、画像処理を用いて障害物をよけながら目的地に向かって走行するという例です。

非線形制御理論(バックステッピング、DSC 等)を横滑りを考慮した制御に応用した例もあります。

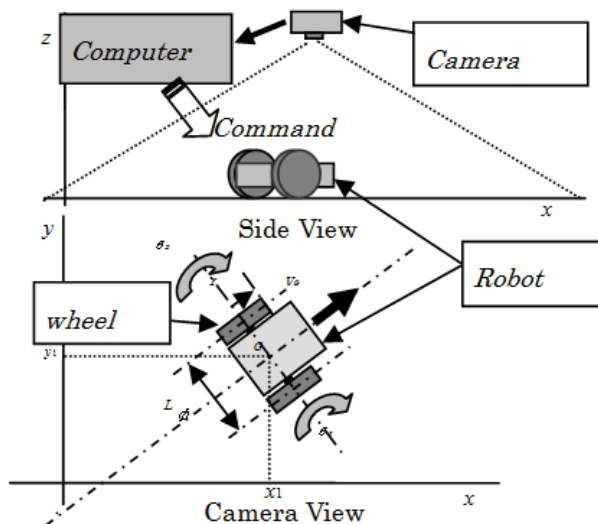


図1 システム構成図

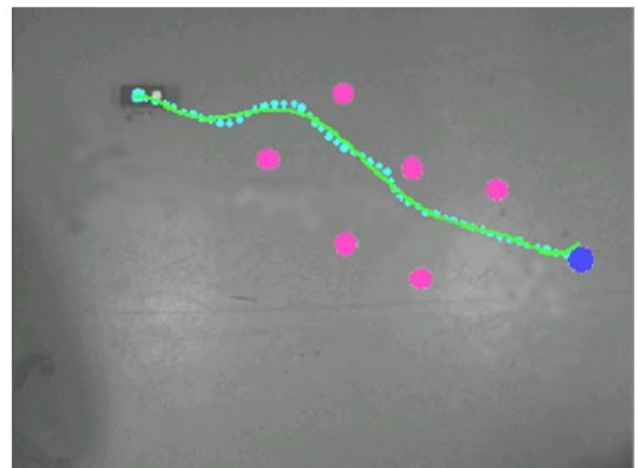


写真1 自律的な障害物回避行動

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

データ収集ボード Q8-USB(QUANSER 社)

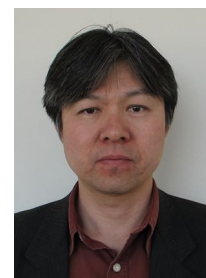
プラットフォームソフトウェア QuaRC2.1(QUANSER 社)

制御設計 CAD MATLAB (MathWorks 社)

研究タイトル：

ディーゼルエンジン排気ガス浄化システム

氏名：	窪田 祥朗／Sachio Kubota	E-mail：	kubota@toba-cmt.ac.jp
職名：	教授	学位：	博士(工学)
所属学会・協会：	日本マリンエンジニアリング学会、電気学会、IEEE		
キーワード：	パワーエレクトロニクス、船用機関、誘導加熱、ソフトスイッチング		
技術相談 提供可能技術：	排気ガス浄化技術 誘導加熱技術、電磁推進技術、非接触給電技術 ソフトスイッチング技術		

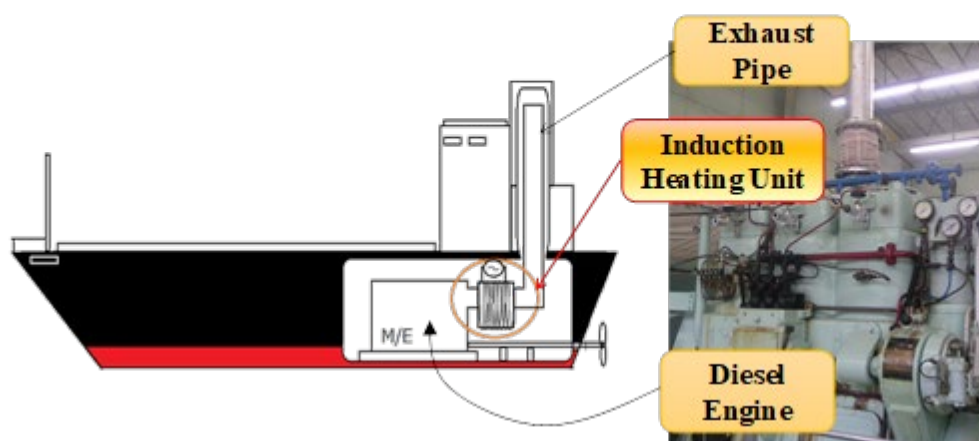


研究内容：

船舶の主機にはディーゼルエンジンが多く利用されています。そのディーゼルエンジンから排出される排気ガスの中には、有害物質が含まれています。特に、船舶では低質油が燃料として利用されておりますので、有害物質が多く、また、排気ガス流量も多いことから、排気ガスを無害化することが重要です。また、船舶においてもカーボンニュートラル実現のために新燃料が検討されていますが、2050年においてもオイルベースの燃料が利用され続けられると予想されています。そこで排気ガス中の有害物質の無害化を目的に、誘導加熱を用いた排気ガス浄化システムを開発しています。

下図は、システムの概要を示したものです。船舶からの排気ガスを、誘導加熱によって高温に加熱して有害物質を浄化しています。誘導加熱は、電気ヒータやバーナとは異なり、非接触でフィルタを加熱できることが特徴です。また、捕集と浄化を同時に処理できることから、メンテナンスが容易なことも特徴です。

Marine Diesel Emission Control System



提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

研究タイトル：

船用機関の排熱発電システムに関する研究

氏名： 嶋岡 芳弘 / Yoshihiro Shimaoka

E-mail: shimaoka@toba-cmt.ac.jp

職名： 教授

学位： 博士(工学)

所属学会・協会：

日本機械学会、空気調和・衛生工学会、日本冷凍空調学会、日本マリンエンジニアリング学会

キーワード：

流体機械、管網解析、冷凍・空調工学、流体工学、エネルギー学

技術相談

提供可能技術：

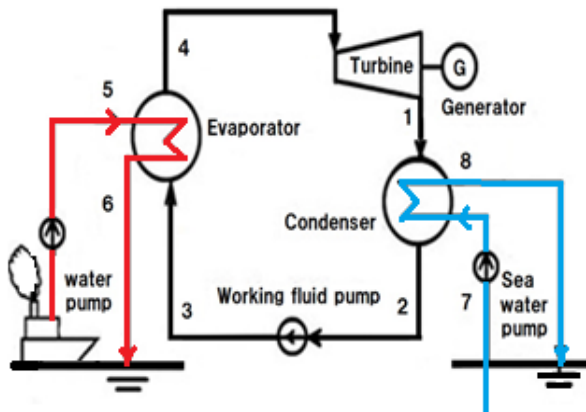
ダクト・配管系の流れ計算



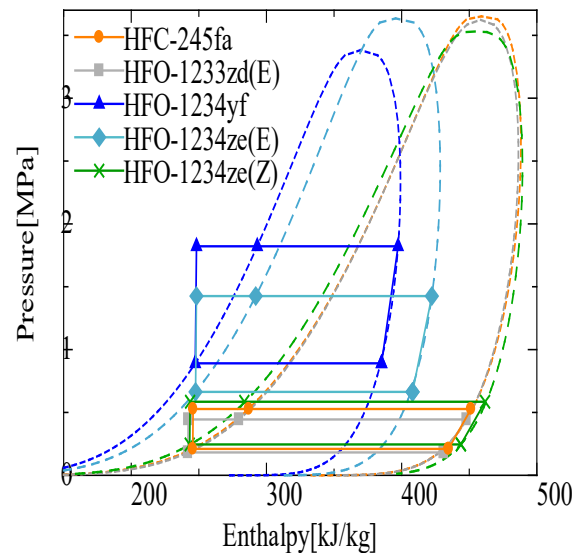
研究内容：

近年、地球温暖化やオゾン層の破壊、酸性雨など、環境問題が深刻化している。海運業においても船舶を運航する上で、化石燃料への依存度が高く、排ガス規制や燃料油価格の高騰などにより、さらなる省エネルギー化が望まれる。その対応策の一つとして、船用機関からの排熱を回収し有効利用する排熱温度差発電が注目されている。本研究で検証している有機ランキンサイクルを用いたバイナリー発電は、地熱発電や温泉水発電等に採用されている。しかしながら、キガリ改正の規制対象外になるHFO冷媒を用いた発電システムに関する研究結果は少ない。したがって本研究では、船用排熱発電システムにHFO冷媒を採用した場合の正味出力の特性について検討する。

図に有機ランキンサイクルと各冷媒の特性(P-h線図)を示す。



有機ランキンサイクル



各冷媒の特性(P-h線図)

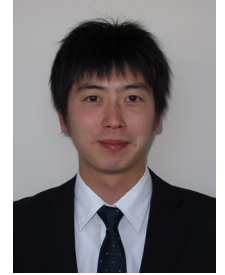
提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

冷凍機実験装置(三菱重工冷熱株式会社)

研究タイトル：

表面テクスチャリングの潤滑特性



氏名：	小田 真輝 / Masaki Oda	E-mail：	oda@toba-cmt.ac.jp
職名：	准教授	学位：	博士(工学)
所属学会・協会：	日本トライボロジー学会、日本マリンエンジニアリング学会		
キーワード：	トライボロジー、流体潤滑、表面テクスチャリング		

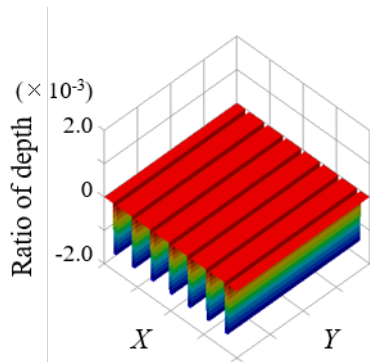
技術相談
提供可能技術：

研究内容：

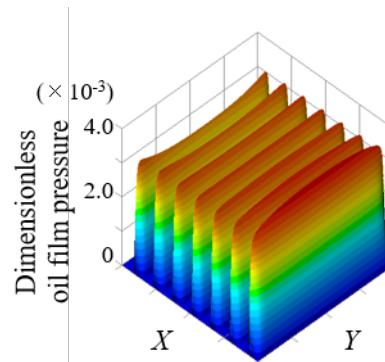
あらゆる機械や機械システムは、複数の部品から構成されており、部品同士は互いに相対運動しながらしゅう動している。しゅう動する部分では摩擦や摩耗が生じ、その結果機械のエネルギー損失を引き起こしたり、部品の表面が損傷して機械を破壊させたりしてしまうため、しゅう動部では一般的に摩擦および摩耗は極力防止することが考えられる。

表面テクスチャリングは表面改質技術の一つで、しゅう動面に規則的に溝や窪み形状の凹凸を施すことにより、しゅう動部の油膜内に圧力を発生させたり、凹部に潤滑油を保持したり、摩耗粉を捕集する効果があると考えられている。しかし、表面テクスチャリングの形状や寸法、配置がトライボロジー特性に及ぼす影響については明らかにされていない。

本研究では表面テクスチャリングの流体動圧効果に着目し、数値解析により、潤滑特性が良い表面テクスチャリングの設計指針について検討する。



(a)加工形状



(b)無次元油膜圧力分布

解析領域に7本の溝形状の表面テクスチャリングを施した場合

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

研究タイトル：

高性能細径伝熱管内の新冷媒の伝熱特性

氏名： 広瀬 正尚／Masataka Hirose E-mail： hirose-m@toba-cmt.ac.jp

職名： 助教 学位： 博士(工学)

所属学会・協会： 日本冷凍空調学会

キーワード： 凝縮、伝熱促進、冷凍空調

技術相談

提供可能技術：

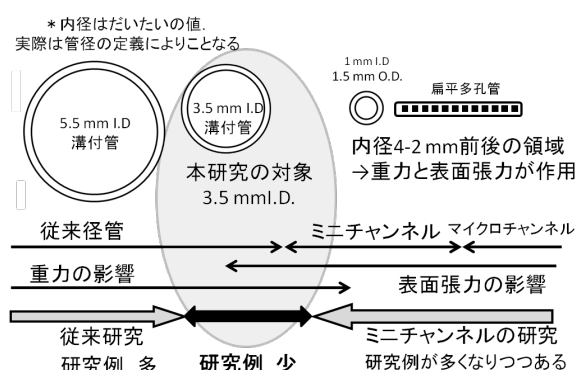


研究内容：

冷凍、空調の分野ではオゾン層保護や地球温暖化問題抑制のためさまざまな取り組みが行われてきた。とくに、近年では代替フロンとして広く普及した HFC 系冷媒(R410A など)の置き換えを目標にさまざまな新冷媒が開発、検討されている。これは HFC 系冷媒が二酸化炭素の数百から数千倍もの温室効果ガスであることが要因である。HFC 冷媒に代わる冷媒の候補は様々で、HFO 系冷媒や、それらの混合物、あるいは自然冷媒(アンモニアや二酸化炭素、炭化水素など)が挙げられているが、方向性については定まっていないのが現状である。

一方で、機器への冷媒充てん量を削減することによる環境負荷の低減の図ることもすすめられている。冷媒充てん量の削減にはシステムの中で大きな体積を占める熱交換器の小型化が必須であり、それを実現すべく、伝熱管の細径管化と高性能化がすすめられている。高性能伝熱管の一種である内面溝付き管は、加工技術の進展とともに溝形状を変化させ、また、細径化が進んだ。細径管は、外径 6 mm より大きい従来径管に比して表面張力の影響を受けるものの、3 mm 以下のミニチャンネルと比してその影響は支配的ではなく、従来径管と、ミニチャンネルの両者の特性の影響を受ける。

本研究では何種類かの溝形状を有する外径 4 mm の伝熱管内でさまざまな新冷媒を用いた凝縮実験をもとに、単管性能の測定し、特性を予測する予測式を作成、熱交換器設計に寄与することを目的としている。



提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

研究タイトル：

超電導回転機の冷却システムに関する研究



氏名： 山口康太／YAMAGUCHI Kota

E-mail: yamaguchi-k@toba-cmt.ac.jp

職名： 准教授

学位： 博士(工学)

所属学会・協会： 船舶海洋工学会、IEEE

キーワード： 極低温、超電導、熱サイフォン、伝熱、電気推進、冷媒、二相混流、真空

技術相談

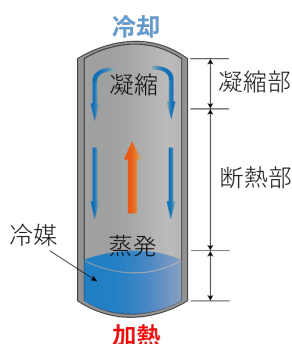
提供可能技術：

- ・極低温域の冷却システム
- ・熱サイフォン
- ・超電導

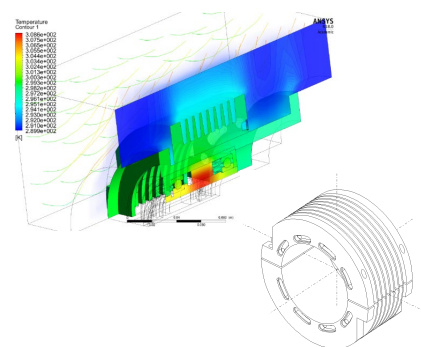
研究内容： 熱サイフォン冷却システムに関する研究

世界的に CO₂ 排出量の削減が進められており、航空機や船舶の分野においては発電機と電動機を用いた電気推進システムが脚光を浴びており、各国にて開発が進められている。発電機や電動機に超電導技術を応用した超電導回転機は従来の電動機・発電機と比較して高出力化・省スペース化が可能となり、世界各国において注目されています。

一方、超電導を扱うため極低温域まで超電導体を冷却しその温度を維持することのできる「特殊な」冷却システムが必要となり、その一つとして熱サイフォンを用いた冷却システムが挙げられます。熱サイフォンは閉じた円管内に冷媒を封入し、上部を冷却、下部を加熱すると、上部では冷媒が凝縮し、下部では冷媒が蒸発します。このとき凝縮した冷媒は重力より下部へ、蒸発した冷媒は上部へと自然に還流を行うことにより、加熱部から冷却部へと熱輸送を行うことができます。



熱サイフォン概要図



解析ソフトを用いた極低温回転継手の熱解析

本研究ではこの熱サイフォンを用いた超電導回転機の冷却システムの研究を次の2点について行っています。

1) 窒素冷媒を用いた熱サイフォン冷却システムの熱輸送特性

- ・超電導材料の高性能化に伴い、液体窒素の温度域(77 K)での超電導回転機の研究が進められています。窒素を冷媒として用いた熱サイフォン冷却システムの熱輸送特性について研究を行っております。

2) 高速回転に対応した極低温回転継手の開発

- ・超電導回転機は内部を真空断熱しているため、回転体と静止体を分けるために気密性を保持しつつ、極低温域でも使用が可能な極低温回転継手が必要となります。航空機分野では 4000 rpm 以上での高速回転が求められるため、これに対応した極低温回転継手研究開発を行っております。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	
極低温冷凍機(GM 冷凍機)	Cryomech 社 AL330

研究タイトル：

機関コース学生及び若年機関士向け新規実習教材開発の研究

氏名： 山野武彦／ Takehiko Yamano

E-mail： yamano@toba-cmt.ac.jp

職名： 准教授(機関長)

学位：

所属学会・協会：

キーワード： ERM、作業マニュアル、船舶海洋工学

技術相談

提供可能技術：



研究内容： 若年船員及び学生向け ERM 教材の開発

2010 年 STCW 条約で機関士としての能力基準に追加された ERM の知識と実践を、乗船勤務をして 3 年未満または、学生を対象とした ERM 実習教材を本校所有の練習船鳥羽丸を用いて研究開発している。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

名称・型番(メーカー)	

研究タイトル：

海流発電用水車の開発



氏名： 渡辺 幸夫／Yukio Watanabe

 E-mail： ywata@toba-cmt.ac.jp

職名： 准教授

学位： 修士(工学)

所属学会・協会：

日本機械学会、日本船舶海洋工学会、日本風力エネルギー学会、ターボ機械協会

キーワード：

流体力学関連【19010】、船舶海洋工学関連【24020】、風力発電、数値流体力学

技術相談

提供可能技術：

 海流発電用水車の流体解析・設計
 船用プロペラの流体解析・省エネデバイスの検討
 流体機械の流れ場解析・設計

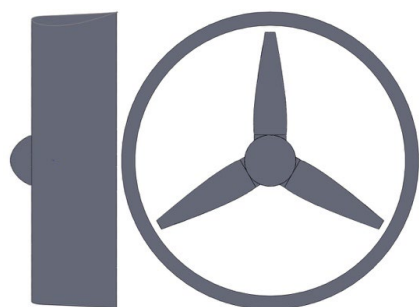
研究内容：

海流発電用水車の高出力化に関する研究

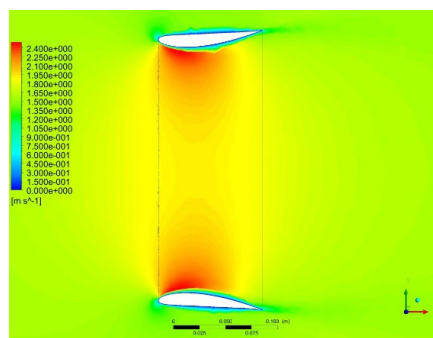
海洋エネルギーをはじめとする再生可能エネルギーの利用は、地球温暖化や原油価格高騰とあいまって注目を集める分野となっている。海洋エネルギー利用法のひとつとして海流発電があり、黒潮などに代表される流れのエネルギーを、海中に沈めた水車で機械的なエネルギーに変換し発電するものである。我が国においても海流発電に対する期待は、今後益々高まるものと思われる。本研究では、海流発電における発電用水車の出力を、シュラウドの集流・増速という流体力学的効果を用いて向上させる方法を検討した。

ところで、日本の海流エネルギー利用については、流速がほぼ一定で大きな流向変化がない黒潮がターゲットされている。このことは、設置とメンテナンスにエネルギーを割くこと最小限にする必要性を示しているものである。つまり、水車ユニットの出力が大きいのは当然として、海洋生物の不着等が少なく、更に実際のメンテナンスに備えることを考慮すれば、浮揚式の発電装置を想定できる。

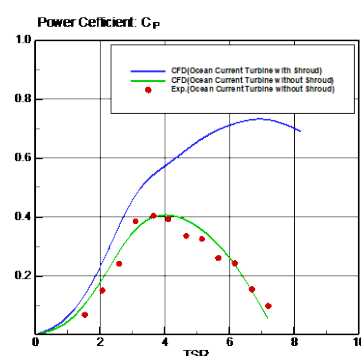
本研究では、浮遊式海流発電用水車の出力を向上させるシュラウドの形状について周流・増速効果を数値的に検討した。またシュラウドだけでなく、水車の複合体の出力向上についても水槽実験結果比較して精度検証を実施したうえで特性を把握した結果、1) NACA4412(-5deg.)断面を持つシュラウドは、集水・増速性能が最も良く、単体での増速比1.33、運動エネルギーの増加割合2.35を実現できる可能性がある 2) 水車にシュラウドを付加することで、シュラウドの増速効果などによって出力係数1.81倍に向上する 3) シュラウドの増速効果などを数値的に確認できたが、シュラウドの長さによる出力増加への影響や、出力係数のみでなく係留に影響を与える抵抗などの影響についても、今後検討が必要である などが明らかとなっている。



シュラウドを有する海流発電水車



シュラウド内の流速分布数値解析



水車性能に対するシュラウドの効果

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

汎用 CFD ソフト[ANSYS Academic Research CFD] (ANSYS)

水槽による風車性能計測装置[動力装置・トルク計・スラスト計]

(西日本流体技研)

3D プリンタ[Ultimaker 2 Extended+] (BRULE Japan)

3D 切削装置[MDX-40A] (Roland)

研究タイトル：

センサ計測とクラウドデータ管理によるIoTシステム

氏名：	出江 幸重／Yukishige Izue	E-mail：	izue@toba-cmt.ac.jp
職名：	教授	学位：	博士（情報科学）
所属学会・協会：	計測自動制御学会、電子情報通信学会		
キーワード：	センサ計測/制御、IoTシステム、クラウドデータ管理による可視化		
技術相談 提供可能技術：	センサ計測、アクチュエータ制御		



研究内容：

近年、生産現場等において、その稼働状態を各種センサで取得し、クラウドで管理して見える化できるIoTシステムの導入が進んでいる。このようなシステムを導入することで、各設備等の稼働状況に関するデータを集計・記録できるようになる。また、客観的にデータを分析が可能であり、稼働率が低くなっているボトルネックとなる設備の特定や、改善が必要な箇所を可視化することもできる。

また、頻繁に異常が発生したり、稼働停止が多い設備も数値やデータを通じて発見しやすくでき、要因分析にもつながる。更に、設備等を効果的に稼働できているのか、生産性アップのためにどのようなすれば良いのかなど、課題発見のきっかけにもなり得る。

本研究では、センサ情報をクラウド管理して見える化できるIoTシステムの構築・開発を目指している。実施例として、工場の生産ラインの可視化、パン屋の発酵管理の可視化システム等がある。

【実施例1】

工場の生産ラインにおける可視化システム

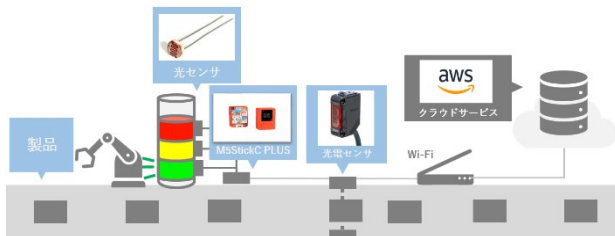


図1 センサでのデータ取得とクラウドへのアップロード

【実施例2】

パン屋における発酵管理の可視化システム

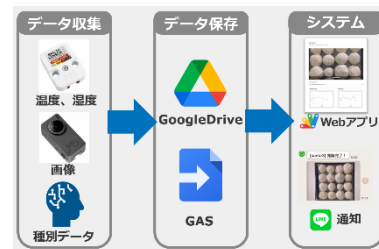


図3 パンの発酵管理システムの構成



図2 生産状況の可視化

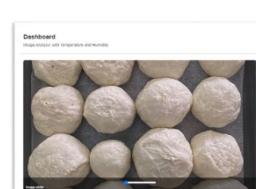


図4 発酵中のパン生地

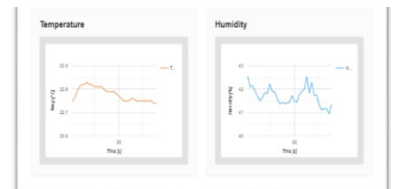


図5 センサの計測データ

提供可能な設備・機器：

名称・型番（メーカー）

研究タイトル：

就職相談ボットの開発



氏名：伊藤立治／いとうたつじ E-mail：t-ito@toba-cmt.ac.jp

職名：教授 学位：工学修士

所属学会・協会：電子情報通信学会

キーワード：AI

 技術相談
提供可能技術：

AI

研究内容：

1. 就職相談用ボット

AI を用いて就職相談用のボットを開発する。就職相談には、対面式の相談、電話での相談があるが、人と話をすること自体が苦手な学生がおり、ボットで対応すれば相談者の抵抗が低くなる。相談がある程度進行した時点で、人間の相談員に交代する形になる。

提供可能な設備・機器：

名称・型番（メーカー）

研究タイトル：

スマート水産業を実現する AI/IoT 基盤の構築

氏名： 江崎 修央／Nobuo Ezaki

E-mail： ezaki@toba-cmt.ac.jp

職名： 教授

学位： 博士(工学)

所属学会・協会： 電子情報通信学会、情報処理学会

キーワード： AI、IoT、クラウド、ネットワークシステム、パタン認識、ヒューマンインタフェース

技術相談

提供可能技術：

IoT を用いたデータ収集、分析、操作システム開発に関するアドバイス

機械学習を用いた人工知能システム開発に関する相談

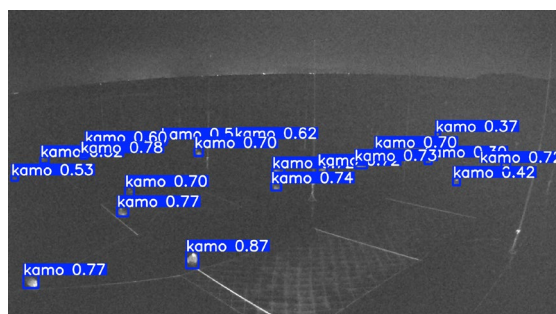
クラウド上でのシステム構築など



研究内容：

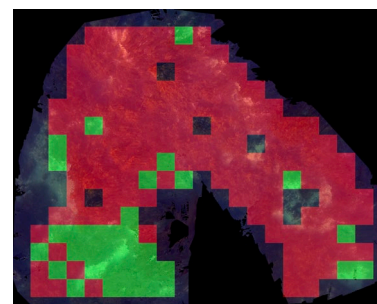
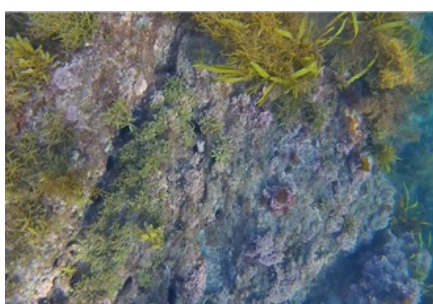
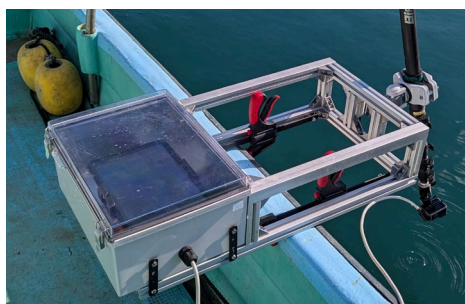
(1)IoT 海洋モニタリングシステム「うみログ」を活用した水産業支援システムの開発

地元企業と共同開発した「うみログ」から収集される海象データ、画像データを解析し、水産業の支援システムの開発に取り組む。例えば海苔養殖では、水位データを元に適切な干出時間を AI で割出し、生産者に提示したり、食害の原因となるカモやクロダイが検出されれば、音や光などを利用した追払いを実現する。



(2)ブルーカーボン貯留量の自動計測システムの研究・開発

漁船に取り付ける水中画像の収集装置を開発し、藻場画像など水中映像データの収集が可能である。収集した水中画像データから、オルソ画像(ひずみのない結合画像)を生成し、藻類領域の識別を実現している。また、藻場の体積算出手法の確立に向けた実証実験を行うとともに、天然藻場の藻類の水深の違いによる炭素貯留量の差異の確認と養殖藻類の炭素貯留量の算出を実施している。



提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

研究タイトル：

レーザーセンシング技術

氏名： 北原 司 / Tsukasa Kitahara E-mail: kitahara@toba-cmt.ac.jp

職名： 准教授 学位： 博士(工学)

所属学会・協会： 電子情報通信学会、レーザー学会

キーワード： ライダー、レーザーレーダ、分光、計測工学、計測システム

技術相談
提供可能技術： 光(LED、レーザー)を用いた計測
遠隔環境計測



研究内容：

レーザーを用いた環境情報の遠隔計測

・半導体レーザーを用いた小型ライダーシステムの開発

近年ヒートアイランド現象、ゲリラ豪雨、近隣諸国の経済発展に伴う大気汚染物質の流入、花粉飛散など、大気環境問題への対策が重要課題となっている。これらの防止対策、警戒情報提供のためにはその局所的な大気環境情報の正確な把握が重要である。ライダー(LIDAR: Light Detection And Ranging)は光を用いたリモートセンシングの1つで、エアロゾル、雲、水蒸気、オゾン、大気汚染気体、気温など大気の種類パラメータの測定が可能であり、大気の有効な観測手段である。

本研究では、高度数 km の雲や霧、エアロゾル等の観測に利用することを目的とし、近距離測定に特化した過般型小型ライダーシステムの開発を以下の2手法を用いて行っている。

(1) モノスタティック方式(図1)

光源の半導体レーザーと受光器の望遠鏡が同軸上に配列され、レーザーをパルス出力で使用する。受光器は、散乱光を集光する光学望遠鏡、光を検出する光電子増倍管(PMT)からなる。受信信号は、微弱であるため検出手法はフォトンカウンティングで行う。

(2) バイスタティック方式(図2)

半導体レーザーを連続光で使い、受信は広い高度範囲の観測が可能であるデジタルカメラを使用する。民生品のカメラを用いることで、軽量化とコスト削減が可能となる。カメラで撮影した画像から画像処理によって、散乱光強度のプロファイルへと変換する。

本システムは、都市、地域などの局所的な大気環境情報の取得を目指す。そこで、観測可能範囲を高度数 km 程度のみとして割り切り、システムを半導体レーザー、小型望遠鏡やカメラの使用、観測データをネットワークで配信するなどし、小型化、過般可能としている。複数の拠点での観測が可能となれば、センサネットワークとして機能し、他の気象観測とあわせて地域の大気環境変化へのすばやい対応を助ける手段となる。

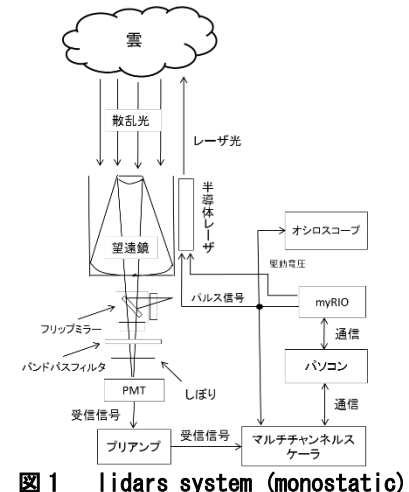


図1 lidars system (monostatic)

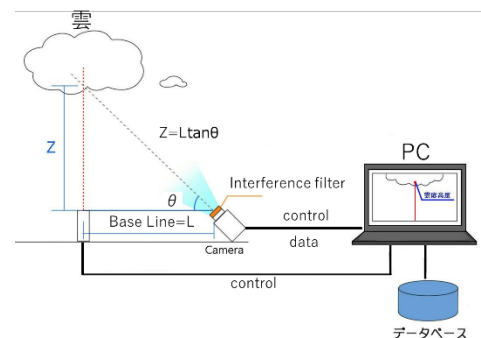


図2 lidar system (bistatic)

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

プログラミングツール Labview (National Instruments)

光ディテクタ H7826P-01 (HAMAMATSU)

分光器 USB4000 (オーシャン옵ティクス)

研究タイトル：

農林水産分野におけるIoT および AI 応用

氏名：白石 和章／Kazuaki Shiraiishi

E-mail：siraisi@toba-cmt.ac.jp

職名：准教授

学位：博士(工学)

所属学会・協会：IEEE, 農業情報学会

キーワード：AI, Deep Learning

技術相談 IoT 関連技術相談

提供可能技術：AI 関連技術相談



研究内容：

「従来技術との優位性」

・収量推定システム

安価な可視光カメラを使用するドローンによる空撮により、収穫期間近の園地を短時間で空撮し、可視光の空撮果樹画像からディープラーニングによって正確な果実収量を正確に推定する産地単位での収量予測システム
⇒(見込まれる効用)他産地における収量推定精度を上回ること、産地単位での出荷計画の正確化を実現。それによる、産地間競争力の向上を見込むことが可能である。

・水分ストレス推定システム

KOSEN ウェザーステーションから得られた環境情報(日射、雨量等)と安価な可視光カメラを使用するドローンによる可視光空撮果樹画像によりミカン果樹の水分ストレスを推定し、灌水アラートを発する栽培支援情報システム
⇒(見込まれる効用)高品質な果実栽培の安定栽培を可能として、園地単位での収入増を実現する。



・AIによる自動灌水システム

スマホを用いた遠隔操作機能、AIを用いた支援機能、KOSEN ウェザーステーションによる局地観測を実現することで、慣行比30%以上の労作時間軽減を実現する。また、地域との連携実績から、ITサービス導入課題のつまづきどころを絞り込み、指導した経験を生かし、安価で本当に使える農業ICTシステムを実現する。

「予想される応用分野」

・水産分野、林業等への応用等。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

Deep Learning 用サーバ環境

研究タイトル：

粒状体を用いたダンパの開発

氏名：	林 浩一／Koichi Hayashi	E-mail：	k-hayashi@toba-cmt.ac.jp
職名：	教授	学位：	博士(工学)
所属学会・協会：	日本機械学会、日本実験力学会、日本 AEM 学会		
キーワード：	機械力学、振動、ダンピング		
技術相談 提供可能技術：	振動低減に関する技術 騒音低減に関する技術		



研究内容：

図 1 に示すような鋼球や砂の一粒ずつは固体であり、これを変形させるためには大きな力を必要としますが、その集合体である粒状体は、水やオイル等の流体と同様に比較的小さな力を加えることで流動変形します。この特性を生かし、粘性ダンパの一種であるオイルダンパのオイルの代わりに粒状体を充てんする、図 2 に示すような構造のダンパを開発しています。このダンパはオイルダンパに比べると環境や資源問題に対して優しいだけでなく、流体を使わないことからオイルシールが不要になるため、簡単な構造で耐久性にも優れる等、様々な利点が見込まれるものです。また図 3 に示すように、一般的な粘性ダンパや摩擦ダンパとは異なるユニークな減衰力特性を持っています。



図 1 粒状体の例(鋼球)

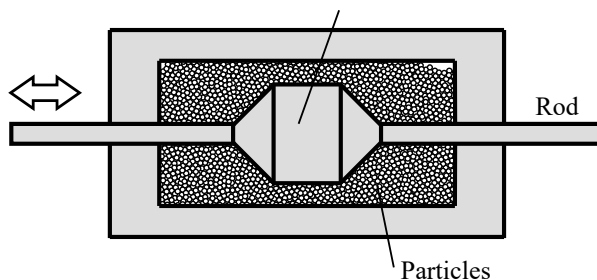


図 2 粒状体を用いたダンパの構造例

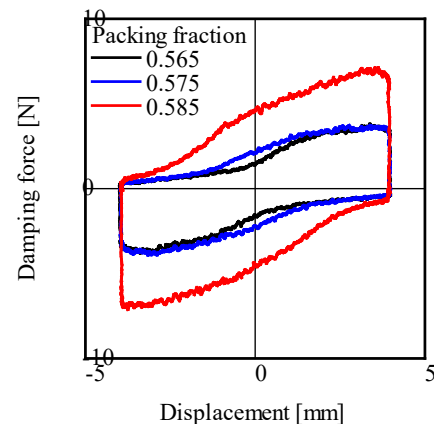


図 3 カー変位関係

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

研究タイトル：

磁性エラストマを用いた振動機器の開発

氏名： 林 浩一 / Koichi Hayashi

E-mail: k-hayashi@toba-cmt.ac.jp

職名： 教授

学位： 博士(工学)

所属学会・協会： 日本機械学会、日本実験力学会、日本 AEM 学会

キーワード： 機械力学、電磁力関連振動、スマート材料・構造

技術相談

提供可能技術：

振動利用機器に関する技術

磁性エラストマに関する技術



研究内容：

磁性エラストマは磁性を有するゴム状の物質であり、外部から磁場を印加すると物性が変化することが知られています。本研究では、磁性エラストマに磁場を印加したときの、振動に関する特性変化を利用した機器の開発を目指し、磁性エラストマを構成する材料の組成割合や内部構造、磁性エラストマ製部材への印加磁場分布等が、磁性エラストマ部材の固有振動数や減衰に及ぼす影響を実験的に調べています。

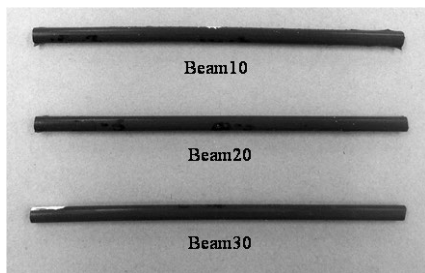


図 1 鉄粉とシリコンゴムを混合して製作した磁性エラストマ製はり

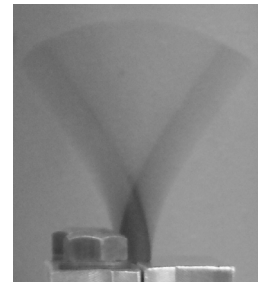


図 2 磁性エラストマ製の振動

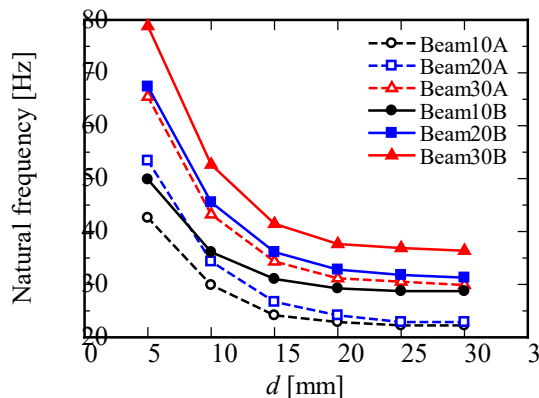


図 3 固有振動数の変化

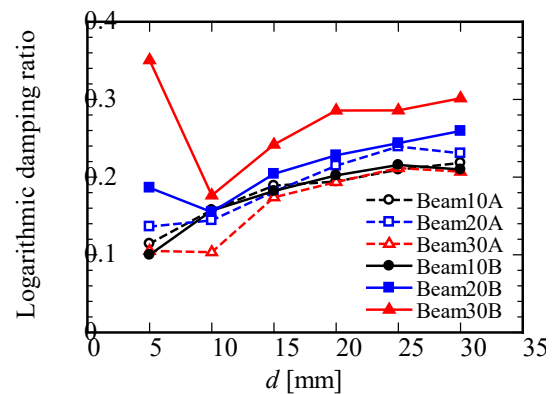


図 4 対数減衰率の変化

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

引張圧縮試験機・SVZ-200NB-50R3(今田製作所)

レーザ変位計・LK-G5000(キーエンス)

研究タイトル：

3次元計測およびその応用に関する研究

氏名： 廣瀬 誠 / Makoto Hirose

E-mail: hirose.makoto@toba-cmt.ac.jp

職名： 准教授

学位： 博士(情報科学)

所属学会・協会： 精密工学会、電気学会、電子情報通信学会、情報処理学会、等

キーワード： コンピュータビジョン、3次元計測、同期現象、画像圧縮、超解像、機械学習、歩容認証、

技術相談

提供可能技術：

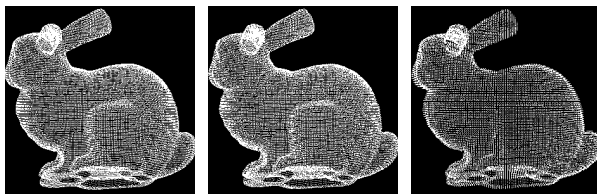
3次元計測およびその応用分野について(歩容認証、データ圧縮、AR、プロジェクションマッピング等)
画像処理全般(OpenCV系、機械学習、画像圧縮、超解像、カラー化、同期現象等)
Webサイト構築およびアプリ開発について(フロントサイト、バックエンド、IOS、Androidアプリ開発等)



研究内容：

・3次元データの位置合わせ、再構築、圧縮

膨大なデータ量となる3次元データを扱いやすい形式に変換、軽量化をします。同期現象を用いた手法により、約80%のデータ削減に成功しました。



(a)元データ (b)約70%圧縮 (c)約80%圧縮

図1 Stanford bunnyによる例(頂点数: 35947)

・高精度GPSを用いたキャリブレーション不要AR

高精度GPSとグローバル3次元データを用いて、キャリブレーション不要ARを実現します。建築現場において、その実現を試みました。



図2 高速道路建設現場 図3 モノレール建設現場

・3次元歩行データを用いたバイオメトリクス認証

セキュリティに強いバイオメトリクス認証(3次元歩容認識)について機械学習を用いて分析します。機械学習が識別時にどこを見ているか解明されてきました。

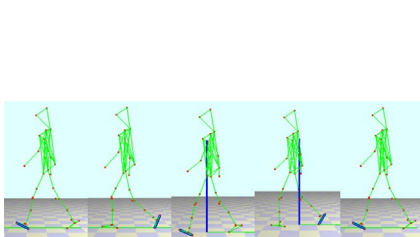


図4 歩行データ

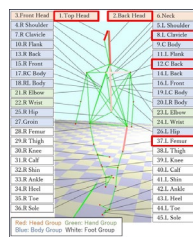


図5 着目部位

・Webシステム構築およびアプリ開発

人不足の代替としてのアプリ開発およびWebシステムを構築します。大規模農業(稲作)の水栓開閉状況を管理するアプリを実証しました。

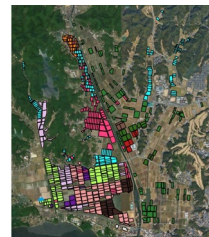


図6 種別圃場表示



図7 水栓 ON/OFF 表示

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

高輝度単焦点プロジェクタ(EPSON EB-700U)

温度・湿度・照度計(+ロガー)(おんどとり:T-y4Ui-S)

簡易LiDAR(DOLPHIN D5 Lite)

CO2計(+ロガー)(HJ-CO2-LOG)

パルスオキシメーター(PULSOX-500i)

騒音計(+ロガー)(DT-8852)

アイトラッキングデバイス(Pupil Neon Academic)

研究タイトル：

ハドロン・光子の相関とスペクトルの理論と解析



氏名： 溝口 卓哉 / Takuya Mizoguchi E-mail: mizoguti@toba-cmt.ac.jp

職名： 教授 学位： 博士(理学)

所属学会・協会： 日本物理学会

キーワード： 素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理

 技術相談
 提供可能技術： 物理現象の解釈、理論計算、数値計算法、データ解析法

研究内容：

LHC(Large Hadron Collider)の実験が始まり、多くの粒子分布や粒子相関に関する実験データが発表されている。これまでに提案されたモデルや新しいモデルを用いて、これらのデータを理論解析し、RHIC (Relativistic Heavy Ion Collider) で発見された QGP (quark gluon plasma) の検証や LHC で発見された新しい現象を調べている。特に、LHC で発表された大きな横運動量のデータを用いたハドロン生成温度の精密な測定方法の研究に取り組んでいる。

高エネルギー衝突において、ハドロン生成の温度は、横運動量分布を使って測定される。これまでの温度の測定には、相対論的 Boltzmann 分布が用いられてきたが、RHIC や LHC で得られた大きな横運動量のデータをこの分布に合うことはできない。これらのデータを説明するため、温度の揺らぎを考慮した理論式を研究している。

他方、初期の宇宙の温度の揺らぎの痕跡が宇宙マイクロ波背景放射 (CMB) に含まれていると考えられる。この温度揺らぎの要因を探るために COBE (宇宙背景放射探査機)の宇宙マイクロ波背景放射 (CMB) の黒体放射スペクトルのデータを非可法的統計力学などの理論式で解析し、これらの理論のパラメータと宇宙論の Sunyaev-Zeldovich 効果や化学ポテンシャルの関係を調べている。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

研究タイトル:

家庭用ロボットの制御

氏名: 宮崎 孝 / Takashi Miyazaki

E-mail: miyazaki@toba-cmt.ac.jp

職名: 教授

学位: 博士(工学)

所属学会・協会: 計測自動制御学会、システム制御情報学会、日本ロボット学会

キーワード: 浴室掃除ロボット、アドバンスド制御、機械力学・制御、制御・システム工学

技術相談 壁面吸着移動機構、画像による汚れの検知

提供可能技術: ディスクリプタシステムやスライディングモード制御などアドバンスド制御の応用



研究内容:

ニーズが高いですが、防水など課題の多い浴室全体を掃除する**浴室掃除ロボット**の開発を目指し、真空吸着による壁面移動機構(図1)、視覚センサーによる汚れの認識、汚れ具合の評価(図2)、LiDARによる浴室のマッピングなどに取り組んでいます。

また、ディスクリプタシステムやスライディングモード制御(図3、図4)などアドバンスド制御により、様々な機械系に対する高精度な制御が行えます。



図1 天井移動ロボット

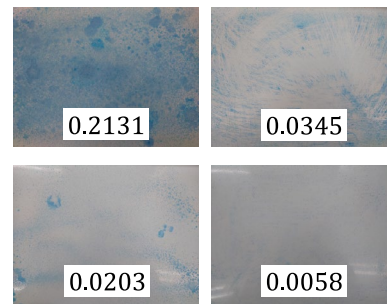


図2 汚れの定量化ト

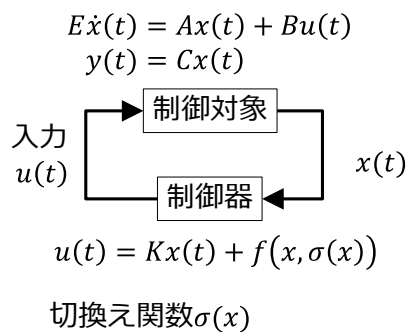


図3 ディスクリプタシステム

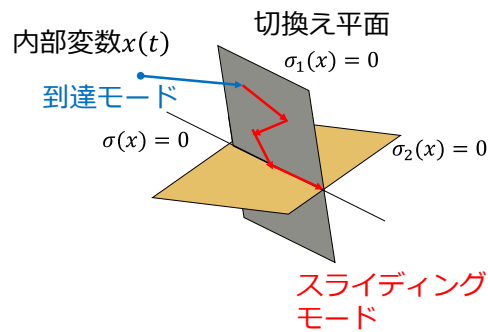


図4 スライディングモード制御

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)

Matlab・Simulink (Mathworks)

研究タイトル：

光を用いた圧力・温度計測技術に関する研究



氏名： 亀谷 知宏／Tomohiro Kameya

 E-mail： kameya.tomohiro
@toba-cmt.ac.jp

職名： 准教授

学位： 博士(工学)

所属学会・協会： 日本機械学会

キーワード： 感圧塗料, 感温塗料, 光計測, 流体工学, 計測工学

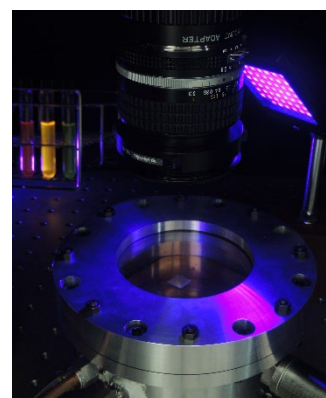
 技術相談
提供可能技術：

研究内容：

航空機や鉄道、自動車に代表される輸送機器やその他の産業機器を設計、開発するにあたって、固体表面にはたらく空気力(圧力)を計測することは非常に重要である。この表面圧力は従来、計測対象に微細な穴をあけ、そこに圧力センサをつなげることで計測されてきた。しかしこの方法では、穴をあけた位置の圧力しか計測できないため、流れ場全体を把握することは難しく、さらにその設置できる対象にも限りがある。例えば 1mm にも満たない微細な物体や、プロペラのような高速で回転するような物体の計測には使用できない。

そこで機能性分子センサである感圧塗料(Pressure-sensitive paint: PSP)による圧力計測技術が注目されてきた。PSP とは色素分子を含んだ塗料であり、適切な波長の光が照射されると発光する。周囲に酸素が存在すると色素分子が発する光は弱められる。つまり周囲の圧力により発光の明るさが増減する。実際の計測では、PSP をエアブラシなどで計測したい面に塗布し乾燥させた後、計測面に光を照射し、その発光画像をカメラで撮影するだけで計測面全体の圧力分布を得ることができる。PSP はこれまでに、主に航空機開発における風洞試験に用いられ、機体周りの流れ場の解明や翼の設計、さらには燃費性能の向上や騒音の改善などに大きく貢献してきた。さらに最近では、鉄道や自動車周りの流れ場への適用も進められている。

私はこれまでに、ハードディスクドライブ内で高速で回転するディスク表面に PSP を塗布することで、高速回転時にディスク表面に生じる圧力分布の計測に初めて成功した。このように PSP は、従来の圧力センサでは計測できなかった圧力分布の計測が可能になるなど、圧力センサとして大きな可能性を有している。一方で、PSP は計測表面の温度変化によって計測誤差を生じてしまうなどの課題もあるため、PSP と同様に光により固体表面の温度が計測できる感温塗料(Temperature-sensitive paint: TSP)を組み合わせた複合センサを開発してきた。現在はこれら PSP や TSP のさらなる改良や、これらの塗料を利用したさらなる計測技術の開発に取り組んでいる。



提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	
冷却 CCD カメラ・BU-50LN (ビットラン)	分析天秤 (0.01mg, 52g)
高輝度 LED 光源システム・LEDH60-395 (浜松ホトニクス)	遠心分離機 (3180G)
圧力, 温度校正用チャンバー	ホットスターラー
温度コントローラ	フォトグラメトリソフトウェア PhotoModeler Scanner
高精度自動 XY ステージ・SGSP26-150(XY) (シグマ光機)	

研究タイトル：

設計・加工・生産システムとデジタルツイン



氏名：	児玉 謙司 / Kodama Kenji	E-mail：	kodama-k@toba-cmt.ac.jp
-----	----------------------	---------	-------------------------

職名：	准教授	学位：	博士(理学)
-----	-----	-----	--------

所属学会・協会：	日本機械学会
----------	--------

キーワード：	機械工学、DX
--------	---------

技術相談 提供可能技術：	ものづくり(機械工学)に、デジタルツイン(情報工学)を取り入れ、最適化や効率化の追求のみからは導くことができない、新しい価値を生み出す生産活動のあり方を考えます。時間や場所に制約を受けない、新しい生産手法を社会に発信していきます。
-----------------	---

研究内容：

製造業は日本の経済発展を担ってきました。現在、少子高齢化、首都圏と地方の格差、雇用不安といった社会構造的な問題によって、日本のものづくり力は衰退し、空洞化に直面しています。また、COVID-19により世界中の人々の働き方が激変し、地球環境問題の顕在化により既存の生産システムはドラスティックな変革が求められています(1)。

本研究室は「デジタルツイン(Digital Twin:DT)」が未来のものづくりの基盤を作り、製造業を進化させるという立場で、次の3つのフェーズに着目し研究開発活動に取り組めます。



○設計フェーズ：共創設計による新しいデザインスキーム

注文者が仕様策定し、受注者が材料選定、強度計算、作図を行い、注文者が図面承認を行い設計が完了します。このキャッチボール型の設計作業を、サイバー空間におけるデジタルモデルを用いた共創型とした場合の問題点や課題を解決し、新しいデザインスキームを提案します。

○加工フェーズ：デジタル師匠による技術指導

NC工作機械加工では、加工プログラムを走らせるまでの段取り(ワークや工具の取り付け、パラメータ設定、ドライラン)が品質・コストを決定します。その作業ノウハウは加工者間で共有されていない場合が多い。サイバー空間からフィジカル空間に指示をだすデジタル師匠が、非熟練者に対して段取り方法をレクチャーします。

○生産システムフェーズ：時空を超えたプラント運転

プラントは無数の圧力計やバルブなどが接続された機械装置です。その運転は、中央制御室に集約された情報を、24時間体制で管理することで実施され、安全が守られています。DTによる仮想パイロットプラントを用いて、時間と場所に依存しないメタバースによって、人や環境にやさしいプラント運転のあり方を考えます。

(1) FUTURE CITY FORECAST 2035、NTT アーバンソリューションズ(株)、2021

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	
3軸マシニングセンタ VCN-530C(MAZAK)	
CNC 旋盤 QT-COMPACT 200M(MAZAK)	
レーザー加工機 ML2512HV2-R PLUS(MITSUBISHI ELECTRIC)	

研究タイトル：

物性研究の技術を活かした農産物・食品の新たな評価手法の創出

氏名：	酒井 智香子／Chikako Sakai	E-mail：	sakai.chikako@toba-cmt.ac.jp
職名：	准教授	学位：	博士(理学)
所属学会・協会：	日本物理学会・日本表面真空学会・応用物理学会・日本化学会・日本顕微鏡学会・日本放射光学会・日本女性科学者の会		
キーワード：	表面科学・実験装置開発		
技術相談 提供可能技術：	銅酸化物高温超伝導体・ペロブスカイト太陽電池の作製や表面分析手法について		



研究内容： 表面物性計測・評価

銅酸化物高温超伝導体(銅酸化物 HTSC)は、作製時に圧力を加えない超伝導体の中で高い超伝導転移温度(T_c)を示します。銅酸化物 HTSC 以前に発見された超伝導体は BCS 理論でその発現機構が解明されていますが、銅酸化物 HTSC はまだ超伝導発現機構が明らかになっていないことから多くの研究が行われています。この発現機構が、まだ、明らかになっていないということに魅かれ、銅酸化物 HTSC の作製、物性評価を行ってきました。

超高真空中で最適ドーパ $\text{Bi}_2\text{Sr}_2\text{CaCu}_2\text{O}_{8+\delta}$ 単結晶(Bi2212)にアルカリ金属であるセシウム(Cs)を吸着させ、その前後で電気伝導度測定を行った結果を図 1 に示します。Cs 吸着により Bi2212 の $T_{c, \text{zero}}$ の下降、Intergrowth 相である Bi2223 の $T_{c, \text{midpoint}}$ の上昇を観測しました。この実験を行うためには、アルカリ金属は活性であるため、超高真空中で吸着する必要があります。また、アルカリ金属吸着後の電気伝導度測定を大気に出すことなく行う必要があったため、それらを可能にする装置立ち上げを設計から行いました。装置立ち上げには幾つも困難が立ちはだかりますが、新しい装置を作製すると、これまで誰も見たことのない実験結果を目の前でみる事ができる感動があります。これからも装置設計に取り組みながら、電気特性による三重県の水産物、農産物の研究を行っていききたいと考えています。

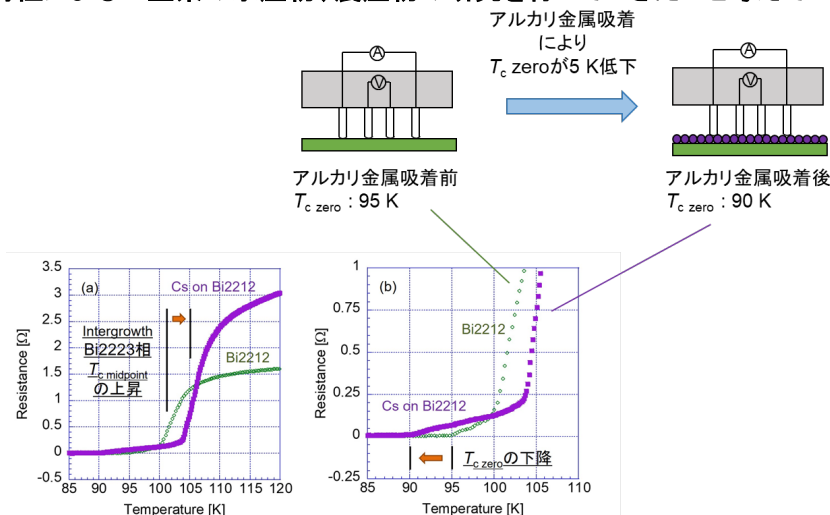


図 1. (a) Cs 吸着前後の Bi2212 の電気伝導度測定結果
(b) (a) の拡大図

“System to measure accurate temperature dependence of electric conductivity down to 20 K in ultrahigh vacuum” C. Sakai *et al.*, Rev. Sci. Instrum. **84**, 075103-1~075103-6 (2013).

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	

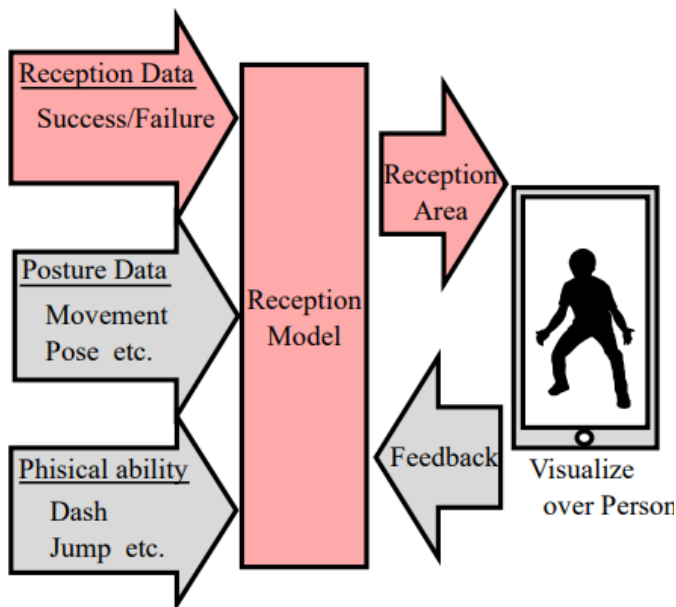
研究タイトル：

スポーツに関する研究の取り組み

氏名：	中井 一文／Kazufumi Nakai	E-mail：	nakai-k@toba-cmt.ac.jp
職名：	准教授	学位：	博士(工学)
所属学会・協会：	情報処理学会		
キーワード：	スポーツ		
技術相談 提供可能技術：	機械学習		



研究内容：



(a) Overhand



(b) Underhand

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

研究タイトル：

眼球運動計測を用いたヒトの感情推定

氏名： 中古賀 理 / Satoshi Nakakoga E-mail: nakakoga-s@toba-cmt.ac.jp

職名： 准教授 学位： 博士(工学)

所属学会・協会： 日本視覚学会、日本心理学会、日本感性工学会、

キーワード： 認知心理学、生体情報学、眼球運動、瞳孔、脳波、

技術相談
提供可能技術： 生体信号計測(脳波、眼球運動、皮膚電位)
感性評価(主観評価及び、生体情報を用いた客観評価)



研究内容：

コンピュータや生体信号の計測機器の発達に伴い、ヒトの情動状態を生理的指標から推定し、ヒトとコンピュータの意思疎通に応用する試みがされている。近年では、ジェスチャーや表情など行動的応答からの情動推定だけでなく、脳波や、皮膚電位や心拍などの生理学的応答からの情動推定も報告されている。また、近年では、カメラによる眼球運動計測(左下図)から得られる、瞳孔径の変化が新たな整理指標として注目を集めている。このような反応は瞳孔散大反応(Pupillary Dilation Response : PDR)と呼ばれ、ヒトの感情状態をはじめ、認知負荷やひらめきなど、あらゆる認知状態を反映すると報告されている。この瞳孔反応は多くの生体信号計測とは異なり、非接触計測である点と、計測装置が安価であるという点から、マーケティング等への応用にも注目が集まっている。

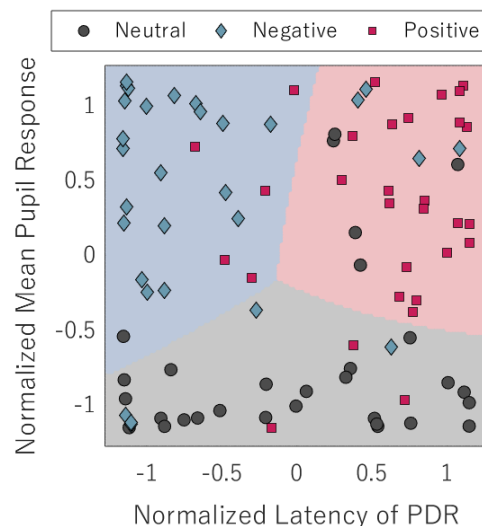
◎ プローブ音刺激を用いた瞳孔反応による感情推定

本研究では、単純なビーブ音をプローブ刺激として、それに対する瞳孔反応から、ヒトの3つの感情状態(快・不快・ニュートラル)を識別することを目的としている(右下図)。プローブ刺激は任意のタイミングで呈示することが可能であるため、将来的には、本手法を用いることによって、ヒトの感情の経時的変化を瞳孔反応からモニタリングすることを最終目標としている。



眼球運動計測の様子

眼球運動計測装置



瞳孔反応を用いた感情推定の結果

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

研究タイトル：

微小金属と光との相互干渉の解析

氏名： 藤井 正光 / Masamitsu Fujii E-mail: fujii@toba-cmt.ac.jp

職名： 准教授 学位： 博士(工学)

所属学会・協会： 応用物理学会

キーワード： [30020] 光工学および光量子科学関連、
表面プラズモンポラリトン、Nano Electro Mechanical Systems(NEMS)

技術相談 金属や誘電体と光との相互作用

提供可能技術： 光学現象の数値解析法



研究内容：

アクティブプラズモンフィルタの解析

金属界面と光の相互作用から得られる表面プラズモンは、ナノメートルオーダーの微小領域に光を局在することから、光通信システムを始めとする光デバイスやセンシングへの応用として大きく注目されています^[1]。

中でも、金属微粒子や金属微細構造は、サイズや形状、構造に依存した任意のプラズモン共鳴ピーク波長が現れることから次世代のデバイスやセンサとして有用視されており^[2]、さらに、近年の微細加工技術の発達に伴い、高精度に任意のプラズモン共鳴ピーク波長の設計が実現し、それらを用いた実用化が期待されています。^[3]

しかしながら、これまで報告されているプラズモン共鳴ピーク波長は、微細金属構造毎の共鳴に留まっており、その可変には至っていません。そこで、K.Yamaguchi らは、入射光の波長程度の周期間隔に配列した金属格子(以下、サブ波長格子)を製作し、外部信号を用いてサブ波長格子を駆動して周期間隔を変動させることにより、サブ波長格子上で生じるプラズモン共鳴波長を可変させることに成功しています。(特願 2012-24619)

図1に、製作したサブ波長格子の2次元解析構造を、図2には、図1の構造の透過光率一波長依存性の数値解析結果を示します。

サブ波長格子を駆動し、周期性(G_v , G_f)を変化させることで、特定の波長域で光共鳴が励起し、透過・反射光量を制御できる事を確認できます。この光共鳴特性を利用する事で、アクティブプラズモンフィルタ(ナノサイズの光シャッタ)の実現を目指しています。特に、本光共鳴は周期構造のサイズ(M_d , G_v , G_f)に依存するため、既存の通信波長帯域に共鳴波長を持たすこともそれほど難しくないと考えています。

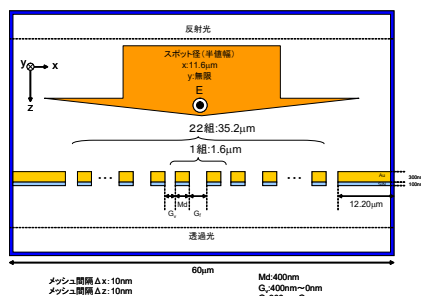


図1：アクティブプラズモンフィルタ解析構造(TE 偏光)

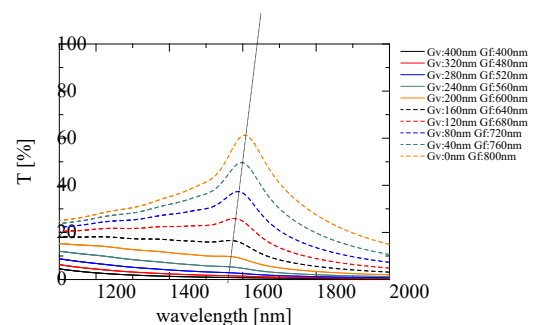


図2：透過光スペクトル

[1] T. Okamoto et al., Appl. Phys. Exp, 1 062003 (2008)、[2] K. Mitsui et al., Appl. Phys. Lett., 85 4231 (2004)、[3] D. Inoue et al., Appl. Phys. Lett., 98 093113 (2011)

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

ZED-F9P RTK システム開発用ボード・F9PX1(ジオセンス)	
みちびき CLAS L6 受信用 NEO-D9C 開発ボード・D9CX1(ジオセンス)	
2 周波 RTK GPS/GNSS アンテナ・ANN-MB-00(u-blox)	
L5/L6 対応多周波 RTKGPS/GNSS アンテナ・BT-345AJ(Beitian)	
ピンポイント GPS チューナ DIP キット A・TGRTK-A(CQ 出版社)	

研究タイトル：

水産業における音響波利用に関する検討

氏名：増山 裕之 / Hiroyuki Masuyama E-mail: masuyama@toba-cmt.ac.jp
職名：准教授 学位：博士(工学)



所属学会・協会：日本音響学会、日本機械学会

キーワード：電子デバイスおよび電子機器関連、計測工学関連：音響工学、環境計測、音場解析

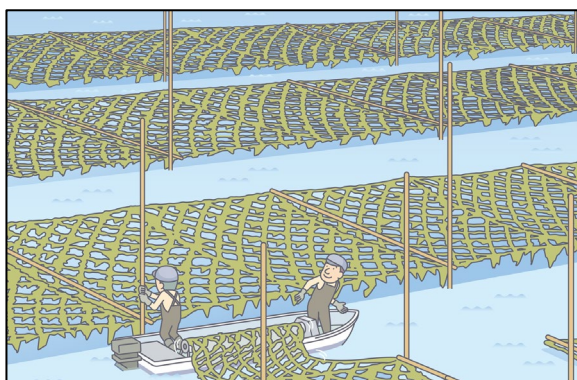
技術相談

提供可能技術：

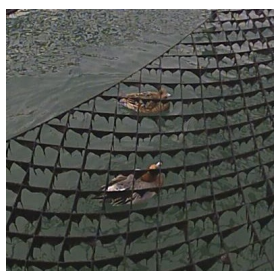
- ・音響波プローブ(スピーカ、マイクロフォン)を用いた非接触・非侵襲測定
- ・指向性音源の応用
- ・微小エネルギー源としての圧電素子の応用

研究内容：

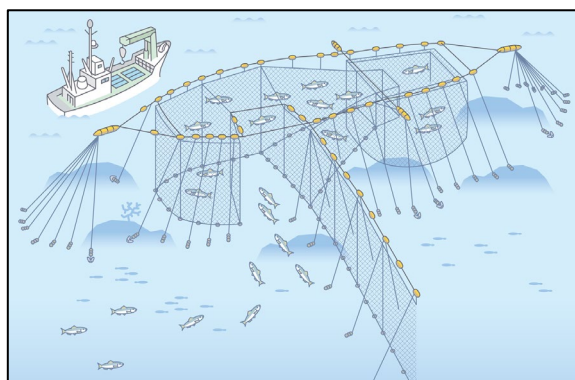
- ・水産業における漁獲量向上、効率化と省力化を目指し、水産業関係施設周辺の魚や鳥の行動に対し、音響波が与える影響について明らかにすることを目指しています。また、そこで得られた知見も活用しつつ、新しい空間・環境測定用センサとしての音響波デバイスの開発を目指しています。



- ・ノリ養殖等における魚類や鳥類による食害被害への対策として、養殖網に近づく魚類や鳥類についての忌避対策が必要となります。



- ・水中スピーカ(左)と水中マイクロフォン(右)を用いて、上記 忌避・誘引に有用な音響波信号の伝搬特性を調査します。



- ・定置網漁業において、入網した魚が逃避する問題への対策として、入網タイミングに縛られない操業を実現するための網閉鎖機構や、魚の誘引、留め置き技術の開発が必要となります。



提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

水中スピーカ： UETAX UA-50

水中マイクロフォン： UETAX RH328

研究タイトル：

OPA プレカラム誘導体化法によるアミノ酸分析

氏名： 澤田 圭樹 / Keiju SAWADA E-mail: ksawada@toba-cmt.ac.jp

職名： 教授 学位： 博士(理学)

所属学会・協会： 日本化学会

キーワード： 分析化学、有機錯体、状態分析

技術相談 高速液体クロマトグラフィー分析装置(HPLC)の利用相談

提供可能技術： 化学分析の分析手段の相談



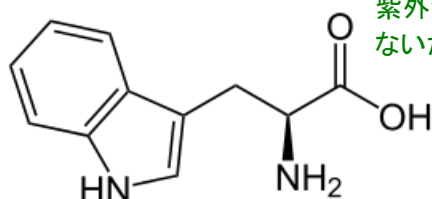
研究内容：

食材のうまみを観察するには？ 高速液体クロマトグラフィーを用いた遊離アミノ酸の分析～

物質の性質は、分子の構造、結晶構造に由来しますが、X線結晶構造解析を利用すると、原子レベルの構造を直接観察することができます。

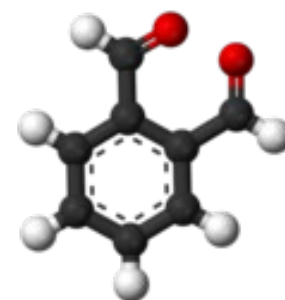
遊離アミノ酸分析とは・・・

ほとんどのアミノ酸は可視紫外領域に吸収や吸光がないため分析できない



例) Tryptophan の分子構造

アミノ酸の誘導体を作成し HPLC で分析すれば 高感度の測定が可能 (プレカラム誘導体化法)



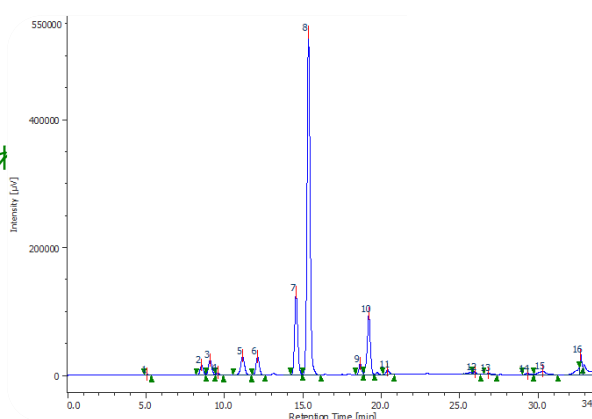
プレラベル化試薬の分子構造

測定例：畜養したウニの遊離アミノ酸分析



わずか 500mg の食材があれば 遊離アミノ酸を抽出し うまみ成分の分析ができる (ナノ mol オーダーで分析)

分析前 処理の様子



例) 遊離アミノ酸の分析結果

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

日本分光 高速液体クロマトグラフィー

Pump: PU-4180, Column oven: CO-4060, Autosampler: AS-4050,

Detector: MD-4010, FP-4020, RI-4030

研究タイトル:

高専生におけるバレーボールのサーブとレセプションに関する研究

氏名:	重永 貴博／Takahiro Shigenaga	E-mail:	shige@toba-cmt.ac.jp
職名:	教授	学位:	修士(体育学)
所属学会・協会:	日本体育学会、バレーボール学会		



技術相談

提供可能技術：

研究内容:

図1 打たれたサーブの種類別の割合

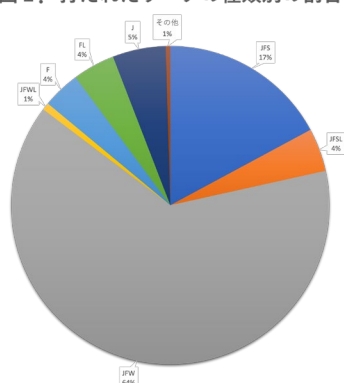


図2. レセプションの位置

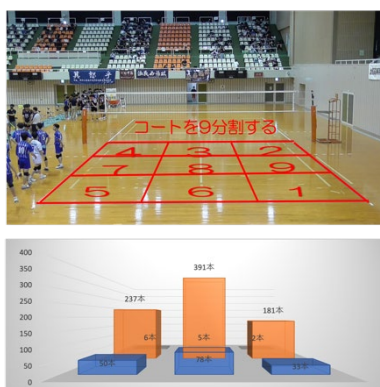
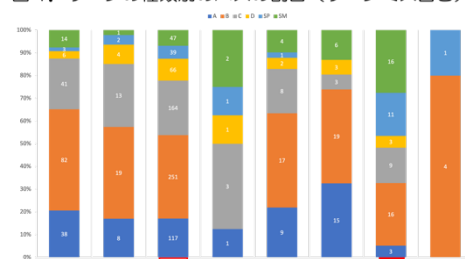


図4. サープの種類別のパスの割合（サーブミス含む）



バレーボールの試合は、サーブで始まるラリーを征すると得点が入る。1セットを取るためには、サーブ権がある時の得点が、相手チームより多い必要がある。1点を取るために、サーブ権を持つ時は、効果的なサーブを打つことが重要であり、サーブ権がない時は、レセプション(サーブレシーブ)の成功が、その後の攻撃の効果を上げるために重要である。サーブとレセプション(サーブレシーブ)の研究は、ナショナルチーム、プロチーム、大学のトップレベルを対象としたものは数多く行われているが、高専生を対象とした研究は少ないので、本研究は令和4年度全国高専体育大会におけるサーブとレセプションの傾向を分析することにより、高専生を指導する時に有効な資料を得ることを目的とする。

この大会では、サーブ総数1073本の内、923本(86%)がジャンプフローターサーブであった。特に両足ジャンプのジャンプフローターサーブが全体の65%を占めた。

自チームのコートを3m四方で9分割し、それぞれの位置でのレセプションの本数をグラフ化したものが図2である。コート中央の8番の位置でのレセプションが全体の約40%、7番、8番、9番の位置での合計は、全体の約83%であった。サーブのミスを防げた結果ではないかと推測される。

サーブの種類別のパスの割合を見てみると、両足ジャンプのジャンプフローターサーブは、ジャンプをしないフローターサーブよりも A パス+B パスの割合は低かった。最も A パス+B パスの割合が低かったのは、ジャンプドライブサーブであった。

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	

研究タイトル：

外国語辞書の研究

氏名：鈴木 聡 / Satoshi Suzuki E-mail: t3104@toba-cmt.ac.jp

職名：教授 学位：修士(英文学)

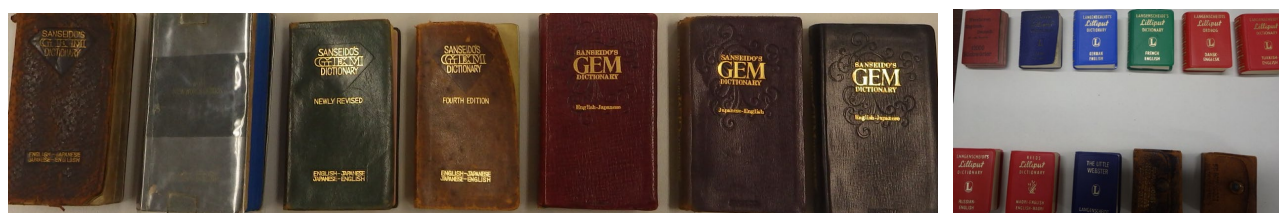
所属学会・協会：関西英語辞書学研究会、岩崎研究会

キーワード：和英辞書の研究、英語辞書の研究、和独辞書研究、古辞書の研究

技術相談
提供可能技術：辞書に関する情報・閲覧(ただし、その場での閲覧のみ。貸し出しは不可)



研究内容：和英辞書の記述に関する研究、様々な外国語辞書の収集・分析



『ライトハウス和英辞典』と『ルミナス和英辞典』における社号に関する一考察『鳥羽商船高等専門学校』(第 32 号)

「過去の和英辞典の記述に関する一考察—神社社号を例にして」『鳥羽商船高等専門学校』(第 33 号)

『広辞苑』と『岩波国語辞典』における社号の記述に関する一考察『鳥羽商船高等専門学校』(第 34 号)

「明治～昭和初期における国語辞典が和英辞典に与えた影響に関する一考察」『鳥羽商船高等専門学校』(第 34 号)

「茶杓の記述に関する一考察」『鳥羽商船高等専門学校』(第 35 号)

「過去の和英辞典の記述に関する一考察—神社社号を例にして(2)」『鳥羽商船高等専門学校』(第 35 号)

「和英辞典における日の丸及び日の丸の記述に関する一考察」『鳥羽商船高等専門学校』(第 36 号)

「英語学の視点からみた和独辞書史に関する一考察」『鳥羽商船高等専門学校』(第 36 号)

「写真で見る英和辞典の歴史—三省堂クラウン英和辞典の場合」『鳥羽商船高等専門学校紀要』(第 38 号)

「写真で見る和英辞典の歴史—三省堂新クラウン英和辞典の場合」『鳥羽商船高等専門学校紀要』(第 39 号)

「和蘭字彙が和英辞書をはじめとする諸外国語辞書作成に与えた影響に関する一考察」『鳥羽商船高等専門学校紀要』(第 39 号)

辞書で見る古書の世界 2016 年 8 月 みえアカデミックセミナー講師

「辞書の大きさの概念における一考察」『鳥羽商船高等専門学校紀要』(第 42 号)

「辞書のネーミングとロゴに関する一考察」『鳥羽商船高等専門学校紀要』(第 43 号)

各種辞書(和英辞典・国語辞典・和独辞典)の記述内容について研究しています。また辞書の記述史や言葉そのものの変遷を調査するために、古今の内外の様々な辞書も収集しています。一番右の写真は三省堂の GEM 英和英辞典の初版から第 7 版です。右はドイツ語の豆本タイプの辞書です。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

各種辞典(国語・英和・和英・和独・独英等)1000 冊以上

※主に明治～令和までに出版された辞書

研究タイトル：

臨時教員養成所卒業生の研究

氏名：鈴木 聡 / Satoshi Suzuki

E-mail: t3104@toba-cmt.ac.jp

職名：教授

学位：修士(英文学)

所属学会・協会：日本英語教育史学会

キーワード：東京高等師範附設臨時教員養成所、英学史、英語教育史

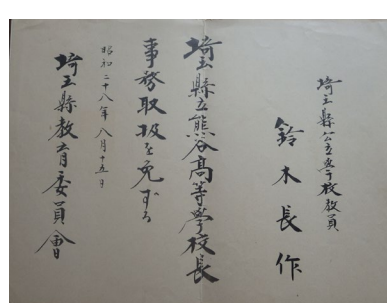
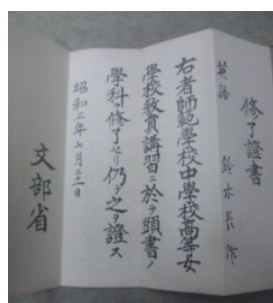
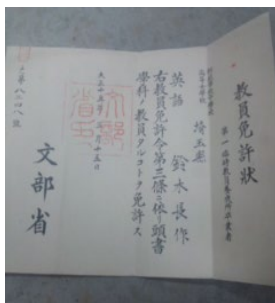
技術相談

提供可能技術：

臨時教員養成所関係の資料の開示・閲覧(ただし、その場での閲覧のみ、貸し出し不可)



研究内容：東京高等師範学校附設臨時教員養成所卒業生の研究(官位官等・業績等)



【論文】

「英学者の痕跡本に関する一考察」『鳥羽商船高等専門学校第』(第 36 号)

「濱林生之助に関する一考察—濱林はなぜ小樽高等商業学校教授に転出できたのか」『鳥羽商船高等専門学校』(第 37 号)

「旧制高等商業学校教授についての一考察—竹原常太、細江逸記、濱林生之助及び河村重治郎を例にして」『鳥羽商船高等専門学校』(第 39 号)

「臨時教員養成所卒業生の動向に関する一考察」『鳥羽商船高等専門学校』(第 39 号)

「書評「外山敏雄著『日本の英語教育を彩った人々たち』」『鳥羽商船高等専門学校』(第 39 号)

「戦前～戦後初期における高等教育機関の教員人事に関する一考察」鳥羽商船高等専門学校紀要 (第 44 号)

「臨時教員養成所卒業生の国家としての評価—他機関卒業生と比較して」日本英語教育史学会第 286 回研究例会 2022 年 1 月 8 日発表

「東京第一臨時教員養成所卒業生の赴任地決定及びその後の動向に関する一考察—他機関卒業生と対比して」鳥羽商船高等専門学校紀要 (第 45 号)

【賞】：第 39 回全国大会発表賞(最優秀賞)，日本英語教育史学会 発表内容：「東京高等師範学校文科第三部卒業生と東京第一臨時教員養成所英語科卒業生 (大正 13 年、15 年、昭和 2 年、5 年、6 年卒) の給費・私費別学生の進路先及び就職後の動向について」

臨時教員養成所は日本教育史の中で傍系的存在の教育機関であり、卒業生の評価も低かったとされている。だが、果たしてそれは真実だろうか。筆者の祖父は昭和 54 年に勲四等旭日小授章を授与された。また、死後は従四位を授与されているが、これは上智大学名誉教授小稲義男や東京学芸大学名誉教授安良岡康作と全く同じ位階勲等である。同時に、ここ数年発表されている旧帝大教授でも叙位は祖父と同じであるものの、叙勲は祖父よりも 1 段階下の四等瑞宝章も珍しくなっている。このことから、従来の臨時教員養成所卒業生に対するステロタイプの評価も見直す必要があると考えられる。この他にも最近では英語教育史で活躍した実業専門学校教員についても資料を収集・分析を行っている。

研究タイトル：

外国語聖書を通じての語法研究

氏名： 鈴木 聡 / Satoshi Suzuki E-mail: t.3104@toba-cmt.ac.jp

職名： 教授 学位： 修士(英文学)

所属学会・協会： 英語語法文法学会

キーワード： 古英語 ゴート語 聖書ギリシャ語 聖書ヘブル語

技術相談
提供可能技術： 古英語、ゴート語、聖書ギリシャ語、古アイスランド語の講読を通じての英語の語法研究及びラテン語及びヘブライ語学習



研究内容： 古典語の聖書を通じての講読研究



『主の祈り』(マタイによる福音書第6章9節～13節)における比較言語学的考察『鳥羽商船高等専門学校紀要』(第31号) 2009年

「翻訳:アポロニウス物語—初期西サクソン語版」『鳥羽商船高等専門学校紀要』(第33号) 2011年

「教材研究をするための英語史と第二外国語の知識の重要性について—good(well)-better-best と bad(ill)-worse-worst を例にして」『鳥羽商船高等専門学校紀要』(第37号) 2015年

「英語教師のための古典語学習案内」『鳥羽商船高等専門学校紀要』(第40号) 2018年

現代英語を理解するうえで、英語史の知識は必要不可欠である。同時に、その他のゲルマン系言語の知識も必要不可欠である。筆者は学部3年～4年にかけて古英語・ゴート語・ラテン語・ギリシャ語について学習を開始して以来、長期間に渡って英語の語法研究を実施してきた。その結果、古英語・ゴート語・聖書ギリシャ語が分かれると現代英語の語法問題点も自ずと理解できることが判明してきた。英語の語法に興味があり、文献学的な面から研究したい人がいれば、ぜひ共同研究を実施したい。また、新たなチャレンジとして聖書ヘブル語や古アイスランド語取得も視野に入れている。まずは一緒に初歩から聖書ヘブル語や古アイスランド語を学習する同志を募りたい。また、ラテン語もだいぶ忘れていたので、一緒に初歩から学習する同志を募りたい。なお、使用する日本語聖書は文語訳、口語訳、共同訳及び新共同訳である。写真が一番左が古英語聖書、左から2番目はゴート語聖書、3番目と4番目はギリシャ語聖書である。5番目はヘブル語聖書、6番目は口語訳聖書と新共同訳聖書である。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

古英語聖書の講読

ゴート語聖書の講読

ギリシャ語聖書の講読

ヘブル語・古アイスランド語の共同学習

ラテン語聖書の共同学習

研究タイトル：

非英語圏における英語教育の研究

氏名： 鈴木 聡 / Satoshi Suzuki E-mail: t.3104@toba-cmt.ac.jp

職名： 教授 学位： 修士(英文学)

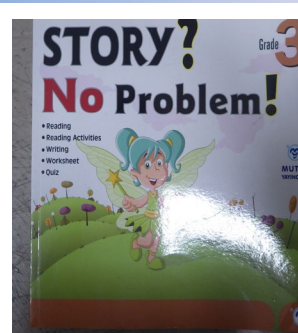
所属学会・協会： 全国高等専門学校英語教育学会

キーワード： Common European Framework of References (CEFR と略)

技術相談
提供可能技術： CEFR に基づいた英語授業の在り方 CEFR に基づいた英語教科書の分析等



研究内容： トルコ共和国における CEFR 準拠の授業



「英語四技能化入試を実施する上での注意点」『鳥羽商船高等専門学校紀要』(第40号) 2018年
「トルコの英語教育について～ITU (イスタンブール工科大学) での在外研究報告～」中部地区英語教育学会三重支部 2018年

「日本とトルコの小学校の英語教科書に関する一考察」『鳥羽商船高等専門学校紀要』(第41号) 2019年
「英語検定試験受験者に対する CEFR 準拠のリスニング試験の実施」(日本教育工学会ポスター発表) 2020年

文科省では大学入試において CEFR を基準として各民間団体の英語試験を通じて、4 技能に関する英語力を測定することを考えていたが、実際にはその計画は頓挫した。筆者は 2017 年 4 月～2018 年 3 月までトルコ共和国のイスタンブール工科大学で CEFR に準じた教材、授業方法、テスト評価について研究してきた。その結果、日本で考えられている各検定試験と CEFR の対応表は大幅に乖離していることが判明している。さらに、トルコで使用している小学生対象の教科書やワークブックは日本が考えている教科書よりもはるかに程度の高いものである。また、日本国内で販売されている中高の教科書においても CEFR ベースで作成されている教科書と比較するとはるかに扱われている語彙数が少ない。リスニングやライティングに関しては日本は CEFR 基準で判断するとレベルが低い。以上の経験を活かし、小学校から高校までの教科書のあり方や、CEFR 準拠の教科書と学習指導要領準拠の教科書における違いなどについて共同研究できる人を求めている。左側の写真は筆者が在籍した School of Foreign Languages, 中央は CEA による Certification, 右はトルコの小学校 3 年生用の教材である。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	
CEFR 準拠の問題集や参考書の提示	
CEFR 準拠のテスト問題の提示	

研究タイトル：

海事英語の研究

氏名： 鈴木 聡 / Satoshi Suzuki E-mail: t.3104@toba-cmt.ac.jp

職名： 教授 学位： 修士(英文学)

所属学会・協会： 全国高等専門学校英語教育学会

キーワード： 海事英語・国家試験対策、CEFR、SMCP

 技術相談
 提供可能技術： 海事英語の指導


研究内容： CEFR に基づいた SMCP 対応の海事英語の研究

「イスタンブール海峡南口における錨泊船の安全性評価に関する研究 ―船舶通信モニタリングシステムの設置」
 (共著)『鳥羽商船高等専門学校紀要 第41号』 (2019)

「海上安全情報の特徴抽出と自動処理に関する研究」(共著)『日本航海学会論文集』(2019)

「海事英語における CEFR 準拠教材開発とカリキュラム検討」(共著)日本教育工学会 2024 年春季全国大会(第44 回大会)

商船学科の学生の国家試験対応について、長年対応しているが、そのほとんどは英文和訳である。実際に海事英語で出版されている教科書・参考書は英文和訳だけといっても過言ではない。しかし、海外に目を向けてみると、同じ海事英語でも英語の四技能全般にわたって、バランスよくまとめられている。例えば、トルコ共和国のイスタンブール工科大学では『Maritime English for Turkish Seafarers I』という海事学部専用のオリジナルテキストを開発しているが、この書籍は CEFR をベースに作成されたもので非常に効率的且つ実践的な内容になっている。さらにこのテキストは SMCP にも対応している。残念ながら、日本ではこのようなバランスのとれた実践的なテキストはこれまでに作成されていない。そこで筆者は商船高専生を対象に CEFR に基づいた SMCP 対応の海事英語の教科書を作るべく研究している。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	

研究タイトル：

中央と地方—16 世紀ヴェネツィア共和国を実例として—

氏名： 中平 希 / Megumi Nakahira E-mail: nakahira@toba-cmt.ac.jp

職名： 教授 学位： 博士(文学)

所属学会・協会： 日本西洋史学会、イタリア学会、西洋中世学会、地中海学会、
広島史学会

キーワード： ヨーロッパ中世史、ヨーロッパ近世史、イタリア史、ヴェネツィア共和国、16 世紀、中央と地方

技術相談
提供可能技術：



研究内容：

中平 希 著

Sogensha
History Books
創元世界史ライブラリー

ヴェネツィアの歴史

海と陸の共和国



地中海交易で財をなし、共和国として千年以上にわたって命脈を保った海上国家ヴェネツィア。ビザンツ世界とローマ・カトリック世界の間という特殊な立地を活かした海上交易や海上領土の存在が目撃されがちだが、実はその陸上領土が重要な役割を果たしていた。本書では伝説の5世紀の建国から説き起こし、18世紀末の共和国滅亡とイタリア王国への編入までを扱う。「史上最も長く続いた共和国」の好個の通史。

創元社

近世イタリア領域国家における中央-地方関係

「地方分権と財源委譲」は、現在の日本でも重要なトピックのひとつですが、中央政府と地方の現地勢力との権力の駆け引きには長い歴史があります。

中世のイタリアでは何百もの都市国家がしのぎを削っていましたが、近世になると、いくつかの有力な領域国家が覇を競うようになります。ヴェネツィア共和国もそのひとつとして北イタリアに支配領域を広げていましたが、この領域国家の構造は近代以降の中央集権国家とは性質の異なるものでした。国家全体を統一する法律は存在せず、中央政府は地方のそれぞれの勢力と個別に条約を結び、中央政府が派遣した行政官は、個別の条約と現地の法に基づいて行政を統轄すると定められていました。中央政府としては、いかにして順調に税を徴収するかが課題であり、現地勢力にとっては、中央からの課税をうまく回避して、逆に政府から自分たちにとっての利益を引き出すことが課題でした。さらに現地の勢力間でも対立があり、都市との力関係で弱い立場にあった農村共同体は、中央政府に訴えることで問題の是正を図ろうとしていたのです。(2018 年 3 月創元社より出版)

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

研究タイトル：

非線型偏微分方程式に対する非線型波の漸近安定性



氏名： 西川雅堂 / Masataka Nishikawa E-mail: masataka@toba-cmt.ac.jp

職名： 教授 学位： 博士(理学)

所属学会・協会： 日本数学会

キーワード： 非線型偏微分方程式、保存則、衝撃波、希薄波、漸近安定性

技術相談

提供可能技術：

- ・
- ・
- ・

研究内容：

我々の扱っている非線型偏微分方程式は圧縮性流体などの物理現象の研究であり、いろいろなモデルの解析に興味を持っています。

1. 単独粘性保存則に対する非線型波の安定性

空間一次元の問題が主に考えられてきた問題を、空間多次元の方程式の問題へと拡張を考えています。まだまだ未解決問題が山積しております。流速関数が凸関数の場合、粘性の衝撃波の安定性は得られているが、その漸近のオーダーを得られていなかった。強い制限のもとでオーダーを得ることに成功したものの、その制限を外すのは難しく、まだまだ満足のいく結果は得られていないようです。

上のような全空間に対する初期値問題ではなく、半空間に対する初期値境界値問題も考えられつつあります。これについては空間一次元でも始まっており、空間二次元で安定性を得ることに成功しました。さらに高次元での非線型波の安定性に興味を持っています。

2. Damping 項のついた空間 1 次元圧縮性流体に対する非線型波の安定性

今までの考察では等エントロピーの場合が主であり、等エントロピーでない場合はあまり良い結果が得られてないようです。そこで我々はエントロピー関数 $s(t,x)$ と比体積 $v(t,x)$ の初期データに関し、無限遠方で定数状態であるときの考察を行っております。

3. 熱輻射を考慮した気体のモデル方程式の非線型波の安定性

熱輻射気体の方程式のモデル方程式について考察していますが、方程式のタイプとしては双曲・楕円型連立系に分類され、この場合も(i)(ii)と同じく非線型波が存在し、既にその安定性などが考察されています。この方程式は、初期データに不連続を持つ場合など、様々な興味ある現象が現れるので今後も取り組んでいきたいと思っています。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

研究タイトル：

国際交流活動を通じた言語習得への動機づけ



氏名： 橋爪 仙彦 / Norihiko Hashizume E-mail: hashizume@toba-cmt.ac.jp

職名： 教授 学位： 修士(学校教育学)

所属学会・協会： 全国高等専門学校英語教育学会

キーワード： 英語教育、国際交流、動機づけ

 技術相談
 提供可能技術： 英語教育、国際交流、留学相談

研究内容：

現在、勤務校において、グローバル教育推進室(旧国際交流推進室)室長に就いて、海外への学生の派遣や海外からの学生の受け入れに携わっている。今年度関わっているプログラムには、以下のようなものがある。

- ① 大型客船を活用した海外派遣プログラム(シンガポール)
- ② 日タイ学生サイエンスフェアでのプレゼンテーション(タイ)
- ③ 海外就業体験プログラム(ニュージーランド)
- ④ 伝統的航海術を基本とした海外研修(ハワイ)
- ⑤ 練習船を活用しての海外学生受け入れプログラム(シンガポール)
- ⑥ 海外高専への視察(モンゴル)

これらのプログラムを通して培った海外とのつながりは貴重な経験であり、本校の学生だけでなく、他校の学生や教職員とも共有できるものであると考えている。学生に対する指導としては、海外で英語を使ってプレゼンテーションをさせることにより、従来のインプット型からアウトプット型への言語活動への展開を学生に経験させ、そのとき感じた楽しいという感情が次のステップへの動機づけになると考えている。私自身も派遣先のスタッフと交流を持ちながら、意見交換の重要性だけでなく人間関係の絆の重要性について学んできた。この経験は人とのつながりを国境を越えて疎かにできないということへの認識に結びついている。

これらのプログラムへの参加を通して、留学プログラムの開発についての制度的な部分についても多くのノウハウを学んできた。その手法についても、これから留学を検討している学生、教職員の方々と共有できれば、さらに還元できることがあると、確信している。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

研究タイトル：

スポーツ競技会運営



氏名：	山田 英生／Hideo Yamada	E-mail：	hide@toba-cmt.ac.jp
職名：	教授	学位：	修士(体育学)
所属学会・協会：	日本体育・スポーツ・健康学会、日本体力医学会、日本陸上競技学会		
キーワード：	スポーツ競技会運営、部活動の地域移行、スポーツ科学		
技術相談 提供可能技術：			

研究内容： 公立中学校部活動の地域移行後のスポーツ競技会運営について(今後取り組みたい課題)

☆公立中学校部活動の地域移行(2022 スポーツ庁)

- ・まずは休日における地域の環境整備を着実に推進
- ・令和5年度から令和7年度までの3年間を改革推進期間として地域連携地域移行に取り組みつつ、地域の実情に応じて可能な限り早期の実現を目指す。

☆プロスポーツを除く日本のスポーツ競技会

多くは土日・その他休日に実施されている。

- ・平日開催では、学校の授業や社会人の勤務日と重なる。→競技役員の確保が難しい。
- ・多くの教員が、引率を兼ねて審判員等の競技役員として従事している。

☆疑問点

- ・各都道府県の競技団体における中学校教員の審判員の割合は？
- ・公立中学校教員が休日の競技会の審判員として従事しにくくなった場合、競技会運営(とりわけ中学校の競技会)が成り立つのだろうか？
- ・地方と大都市圏とでは、それらの様相に違いがあるのか？

☆この研究で目指すこと

スポーツ競技団体における中学校教員の審判員の割合と、今後生じることが予想される競技会運営上の問題を調査し、公立中学校部活動の地域移行後におけるスポーツ競技会運営を円滑に行っていくためのモデルケース構築に寄与したい。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	

研究タイトル：

映画は「歴史」をどう描いてきたか

氏名：	島 大吾／Daigo SHIMA	E-mail：	shima.daigo@toba-cmt.ac.jp
職名：	准教授	学位：	東アジア学(博士)
所属学会・協会：	EAJS(European Association for Japanese Studies)、日本映像学会		
キーワード：	映画、歴史、表象、日本イメージ、「反日」映画		
技術相談 提供可能技術：			



研究内容：

私の専門は、映画というメディアを通して、歴史的な出来事がどのように「表象」(表現・イメージ化)されるのかを分析することです。歴史上の出来事が映画化される際、作り手は何を選び取り、何を伝えようとしたのか。そして、その映画は観客にどう受け止められ、社会の歴史認識にどのような影響を与えたのかを探究しています。

具体的な研究対象として、アメリカ兵と結婚した日本人「戦争花嫁」や沖縄の「ひめゆり学徒隊」、関東大震災後の「福田村事件」など、日本の近現代史における出来事を扱った作品に焦点を当てています。

私の研究の特徴は、映画作品そのものの分析に留まらない点にあります。原作との比較はもちろん、監督や脚本家の視点、俳優の役作り、さらには当時の映画評までを視野に入れ、映画の「制作過程」と社会による「受容の過程」を一体のものとして捉え、多層的な分析を行っています。

近年は、一部で「反日映画」と評される作品群にも注目し、それらの映画がなぜ、どのようにして特定の「日本イメージ」を形作り、時に論争を巻き起こすのか、その構造の解明を目指しています。この「イメージ」を多角的に分析する視点は、企業の広報戦略や海外向け製品開発における文化的リスクの低減、効果的なブランドイメージの構築に貢献できるものです。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	

研究タイトル：

確率数値解析とその応用



氏名： 田中秀幸 / Hideyuki Tanaka

E-mail: h-tanaka@toba-cmt.ac.jp

職名： 准教授

学位： 博士(理学)

所属学会・協会： 日本数学会、日本応用数理学会

キーワード： 確率論、統計数学、数値解析、数理ファイナンス

技術相談

提供可能技術：

確率統計分野における数値計算手法

研究内容：

確率微分方程式の数値解析手法の研究

物理・化学・金融経済などの分野で、ランダムに動き回るもののモデル化において中心的な役割を果たすのが「確率微分方程式」である。

$$dX_t = b(X_t)dt + \underbrace{\sigma(X_t)dW_t}_{\text{ノイズ項}} \quad (W_t: \text{ブラウン運動})$$

確率微分方程式とは、おおまかに言えば、上式のような常微分方程式にノイズ項を加えた方程式であるが、数学的な取り扱いや数値計算の難しさは常微分方程式とは異なる点も多い。特に数値計算においては、常微分方程式に通用した方法が確率微分方程式に対してうまくいくかどうかを調べることは容易でないし、実際にうまくいかないこともある。そのため、数値計算アルゴリズムの開発には確率解析の深い知識が必要であり、確率微分方程式に対する数値計算手法は確率解析の応用分野のひとつとして発展してきた。この研究分野はランダムな事象を取り扱うことから、乱数を使ったモンテカルロ法の応用先としても非常に重要である。

数学の研究として、例えば以下のようなことに興味を持って取り組んでいる。

1. 既存の数値解析手法の誤差評価の精密化
2. 新しい計算手法の開発

また、確率微分方程式の数値計算手法を開発して「何に」使うかも重要である。様々な応用が知られているので、いくつか例を挙げる。

- 数理ファイナンス(金融商品の価格付け)
- フィルタリング理論
- 高次元の偏微分方程式の数値計算

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

研究タイトル：

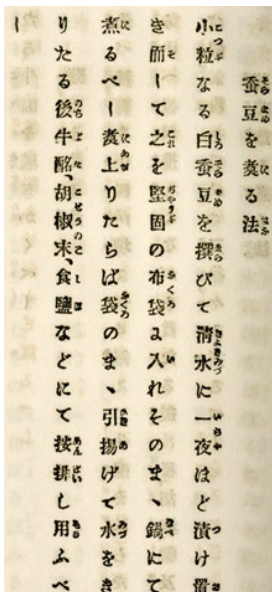
文字・表記の言語学的分析

氏名：	ショーン・ニコルソン / Sean Nicholson	E-mail：	nicholson-c@toba-cmt.ac.jp
職名：	准教授	学位：	博士(文学)
所属学会・協会：	日本語学会、国文学言語と文芸の会、日本近代語研究会		
キーワード：	言語学、日本語学、表記、英語学史、日本語学史		
技術相談 提供可能技術：			



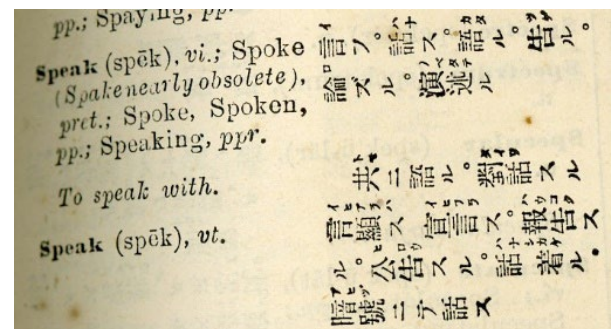
研究内容： 明治前期の文字・表記の日本語学的・計量的分析

明治時代の文献に接する際、現行の日本語の文字・表記システムと異なる要素・用法が目につきやすい。異なる点は字体、仮名づかい、句読点などに及ぶ。ふりがな一印刷用語で「ルビ」とも呼ばれる要素の多用も目立つが、その使用量のほかに、その質も多様性を呈している。



左は明治13年に出版された料理書の一項目である。「清水」という本行の文字列に振られたルビは「きよきみづ」とあり、通常の「よみ」と考えられる「せいすい」「きよみず」「しみず」のどれにも合致しない。「堅固」に「ぢやうぶ(丈夫)」、「布袋」に「ふくろ」、「牛酪」に「ばた(butter)」、「食塩」に「しほ」となっているように、短い文章であるにもかかわらず、「よみ」の範囲におさまらないルビの実例が多い。

右は明治19年に出版された英和辞書『〔附音插图〕英和字彙』の「Speak」項目である。「演述ル」の漢字列に「ノベタテ」というルビがつき、また「宣言ス」に「イヒフラ」を振り、「言い触らす」ということばが対置されている。



『〔附音插图〕英和字彙』明19

『手軽西洋料理法』明13

文字と言語の対応に恣意的な側面があり、なおかつ可変的なものでもある。現行の文字・表記のシステムにおいて、「堅固」に「じょうぶ」という「よみ」としてみとめられないが、同時代に観察できる「麦酒」という文字列に「ビール」というよみかたが定着にいたった。

「堅固」を「ぢやうぶ」とよむことがあとに時代に採用されていなかったが、当該時代において一定の慣用性を有していなかったと断言できない。文献の横断的調査により、その慣用性・特有性を計量的に検討し、共時態のありようの一端を解明してゆく。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

研究タイトル：

文字・表記の言語学的分析

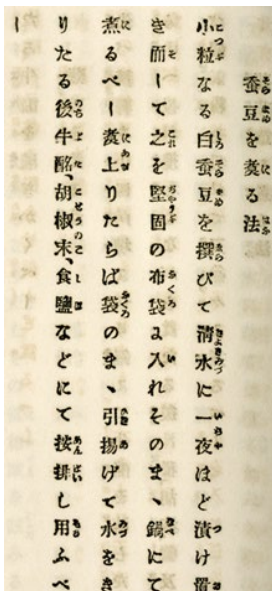
氏名：	ショーン・ニコルソン / Sean Nicholson	E-mail：	nicholson-c@toba-cmt.ac.jp
職名：	講師	学位：	博士(文学)
所属学会・協会：	日本語学会、国文学言語と文芸の会、日本近代語研究会		
キーワード：	言語学、日本語学、表記、英語学史、日本語学史		
技術相談 提供可能技術：			



研究内容： 明治前期の文字・表記の日本語学的・計量的分析

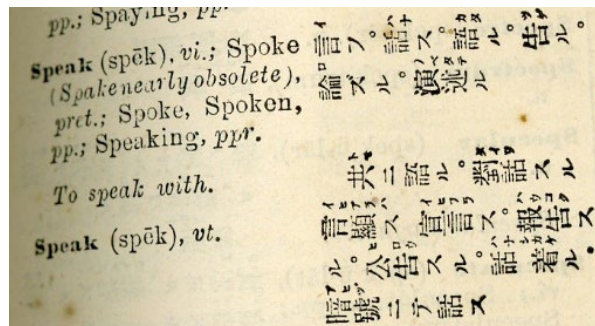
明治時代の文献に接する際、現行の日本語の文字・表記システムと異なる要素・用法が目につきやすい。異なる点は字体、仮名づかい、句読点などに及ぶ。ふりがな一印刷用語で「ルビ」とも呼ばれる要素の多用も目立つが、その使用量のほかに、その質も多様性を呈している。

左は明治13年に出版された料理書の一項目である。「清水」という本行の文字列に振られたルビは「きよきみづ」とあり、通常の「よみ」と考えられる「せいすい」「きよみず」「しみず」のどれにも合致しない。「堅固」に「ぢやうぶ(丈夫)」、「布袋」に「ふくろ」、「牛酪」に「ばた(butter)」、「食塩」に「しほ」となっているように、短い文章であるにもかかわらず、「よみ」の範囲におさまらないルビの実例が多い。



右は明治19年に出版された英和辞書『[附音插图] 英和字彙』の「Speak」項目である。「演述ル」の漢字列に「ノベタテ」というルビがつき、また「宣言ス」に「イヒフヲ」を振り、「言い触らす」ということばが対置されている。

文字と言語の対応に恣意的な側面があり、なおかつ可変的なものでもある。現行の文字・表記のシステムにおいて、「堅固」に「じょうぶ」という「よみ」としてみとめられないが、同時代に観察できる「麦酒」という文字列に「ビール」というよみかたが定着にいたった。



「堅固」を「ぢやうぶ」とよむことがあとに時代に採用されていなかったが、当該時代において一定の慣用性を有していなかったと断言できない。文献の横断的調査により、その慣用性・特性を計量的に検討し、共時態のありようの一端を解明してゆく。

『手軽西洋料理法』明13

『[附音插图] 英和字彙』明19

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	

研究タイトル: 拡張された超幾何関数を解に持つモノドロミー保存変形の諸性質の解明



氏名:	朴 佳南/Kanam Park	E-mail:	paku-k@toba-cmt.ac.jp
職名:	准教授	学位:	博士(理学)
所属学会・協会:	日本数学会		
キーワード:	(離散)パウルヴェ方程式、(q)超幾何関数、複素解析		
技術相談 提供可能技術:			

研究内容:

私が研究している方程式系は、パウルヴェ方程式の高次元化かつ離散化した方程式系である。パウルヴェ方程式とは、20世紀初めに発見された2階非線型常微分方程式で、6種類ある。また、リーマン球面上4点に確定特異点を持つ2階線形常微分方程式を、モノドロミー(解の多価性)表現を不変に保ちながら変形するときの、見かけの特異点が満たす微分方程式(モノドロミー保存変形方程式)としてパウルヴェ方程式が現れることが知られている。

超幾何関数とは、リーマン球面上3点に確定特異点を持つ2階常微分方程式の解として知られている。あらゆる特殊関数を含むという意味でも、重要な関数である。

パウルヴェ方程式の性質の1つとして、あるパラメーターを特殊化すると、超幾何関数で表される特殊解を持つことが知られている。

このパウルヴェ方程式の高次元化や差分化は種々研究されてきている。例えば、本研究において重要な例として、 q ガルニエ系、 q -DS が挙げられる。私は、これらを含む方程式系として MN 系を導出した。本研究では、MN 系の性質を調べることを目標としている。例えば、

1. 対称性の解明
2. 幾何学的特徴の解明

がある。

本研究によって、より多くの解ける非線型方程式の典型例を提示できると考える。現象が数学的に良い構造を持つときは、典型的な方程式で記述できる場合であると言える。パウルヴェ方程式の実学上の応用はよく知られていないが、典型例となる方程式を多く得ることは、自然現象や社会現象の解析に役に立つと考えている。

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	

研究タイトル：

財源調達方式と医療アクセスの関係、医師の労働環境分析

氏名： 深見 佳代／Kayo Fukami E-mail： fukami-k@toba-cmt.ac.jp

職名： 准教授 学位： 博士（経済学）

所属学会・協会： 社会政策学会、北ヨーロッパ学会、日本女性外科医会、京都大学経済学会

キーワード： 医療経済学、社会保障論

 技術相談
提供可能技術：


研究内容：

医師、特に女性医師の労働環境について研究している。医師の労働市場は、人々の医療や福祉にかかわるため関心を持たれやすい分野である。中でも女性医師の存在は従来の男性中心的な医療現場の秩序に変化を要求するものであり、様々な抵抗や議論を呼んできた。

現在、多くの女性医師が医療現場で能力を発揮しているものの、その活躍は依然として多くの要因によって阻まれている。代表的なきっかけは仕事と出産・育児といったライフイベントとの両立であるが、2018年に報道されたように、そもそも大学入試において性差別が存在している可能性も指摘されている。

女性医師の活躍をめぐる状況とその変化について考察するため、女性医師の割合や診療科選択の変化、国などによる支援策とその課題、また入試差別問題について研究を進めている。

提供可能な設備・機器：

名称・型番（メーカー）	

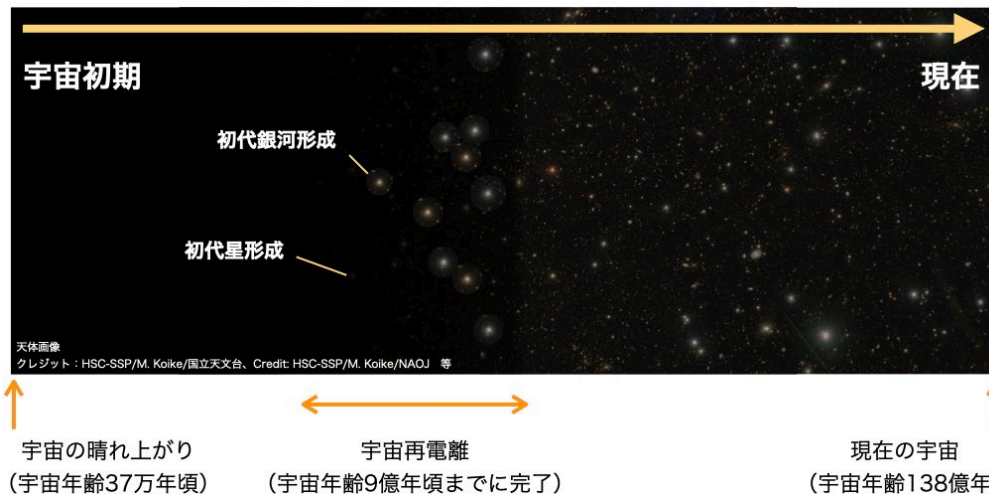
研究タイトル：

初期宇宙における銀河の形成と進化、および宇宙再電離

氏名：	山中 郷史／Satoshi Yamanaka	E-mail：	yamanaka-s
職名：	准教授	学位：	博士(理学)
所属学会・協会：	日本天文学会		
キーワード：	遠方銀河、星形成銀河、宇宙再電離		
技術相談 提供可能技術：	可視光近赤外線波長の天文データ解析全般 天文学に関する教養講座等		



研究内容： 宇宙再電離を引き起こした電離源の解明



宇宙再電離の様子を模式的に表現した図。画像の横方向は時間を表す。

(hscmap から取得した天体の画像データを元に山中作成)

過去に宇宙空間を満たしていた中性水素ガスが、銀河からの紫外線光により電離していった過程のことを「宇宙再電離」と呼んでいます。宇宙の晴れ上がり(宇宙年齢 37 万年頃)以降に宇宙は一度中性化し、そして宇宙年齢 9 億年頃までには再び電離されて現在に至ったと考えられています。

このように大まかな理解は進んでいるのですが、「いつ頃に始まってどのように進行し電離が完了したのか」「どのような種族の銀河が大きく寄与したのか」「どのような場所から宇宙再電離は始まったのか」など、詳細については未だ解明されていない謎が残っています。宇宙再電離は近年の観測天文学における重要なテーマの一つとなっています。

私は CHORUS (Cosmic HydrOgen Reionization Unveiled with Subaru; PI Akio K. Inoue) と呼ばれる研究プロジェクトを通して他機関の研究者と協力し、主に「どのような種族の銀河が再電離に大きく寄与したのか」に興味をもって研究を進めています。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	